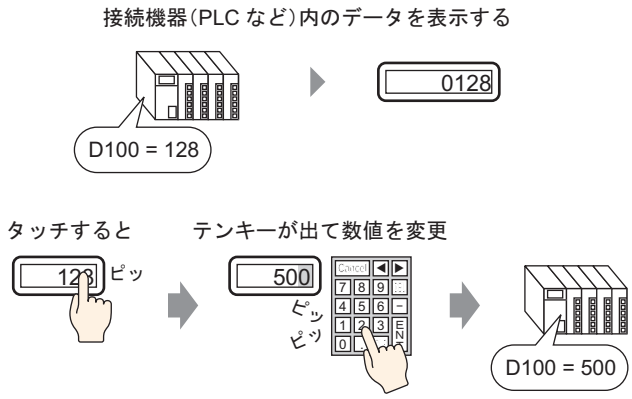
14 データ表示・データ入力

この章では、GP-Pro EX の「データ表示・データ入力」についての基本的な説明と、データ表示部品を配置するための基本操作について説明します。
まず「14.1 設定メニュー」（14-2 ページ）をお読みいただき、目的に合ったデータ表示の説明ページへ読み進んでください。

14.1 **設定メニュー** 14-2
14.2 **数値データを表示・入力したい** 14-5
14.3 **文字列データを表示・入力したい** 14-8
14.4 **数値データをアラーム表示したい** 14-12
14.5 **複数の範囲を色分けして表示したい** 14-17
14.6 **日付・曜日・時間を表示したい** 14-23
14.7 **誤操作を防止したい（インターロック）** 14-26
14.8 **設定の範囲を超えたら入力させない** 14-30
14.9 **続けて、順番に入力したい** 14-34
14.10 **スイッチで加算・減算して数値変更したい** 14-38
14.11 **データ表示器の設定ガイド** 14-43
14.12 **制限事項** 14-101
14.13 **データ入力順序のしくみ** 14-104

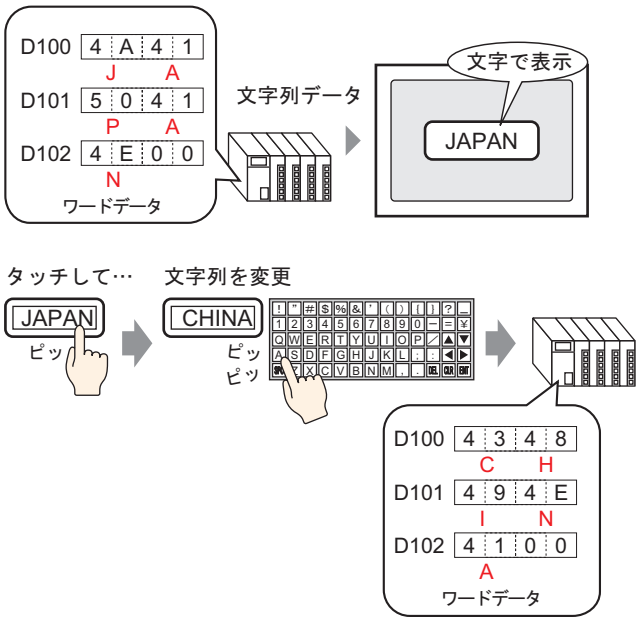
14.1 設定メニュー

数値データを表示・入力したい



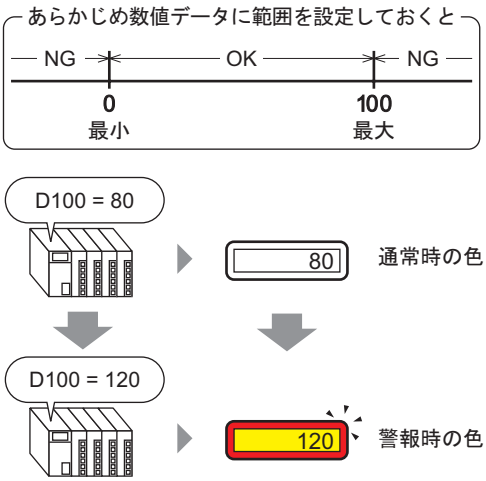
☞ **設定手順**（14-6 **ページ**）
☞ **詳細**（14-5 **ページ**）

文字列データを表示・入力したい



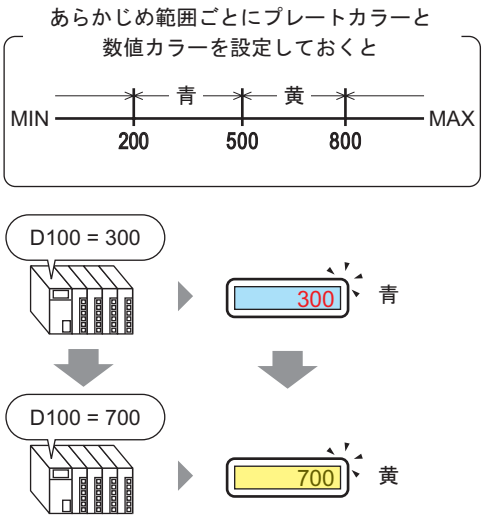
☞ **設定手順**（14-9 **ページ**）
☞ **詳細**（14-8 **ページ**）

数値データをアラーム表示したい



☞ 設定手順（14-13 ページ）
☞ 詳細（14-12 ページ）

複数の範囲を色分けして表示したい

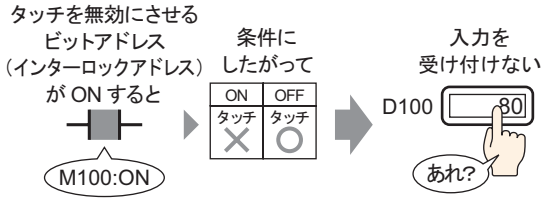


☞ 設定手順（14-18 ページ）
☞ 詳細（14-17 ページ）

日付・曜日・時間を表示したい

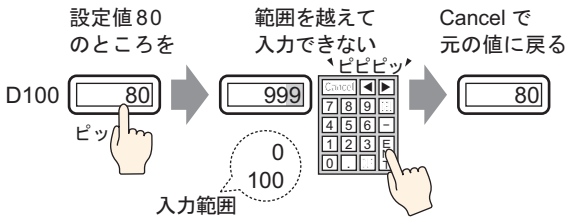
☞ 設定手順（14-24 ページ）
☞ 詳細（14-23 ページ）

誤操作を防止したい（インターロック）



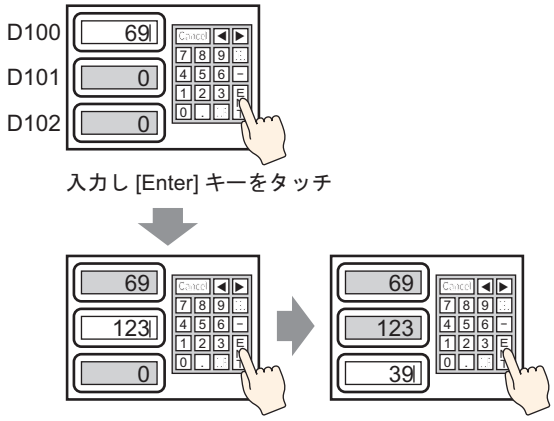
☞ 設定手順（14-27 ページ）
☞ 詳細（14-26 ページ）

設定の範囲を超えたら入力させない



☞ **設定手順**（14-31 **ページ**）
☞ **詳細**（14-30 **ページ**）

続けて、順番に入力したい



入力が確定され、次の入力順のデータ表示部品
が入力状態になる。→入力し [Enter] キーをタッチ

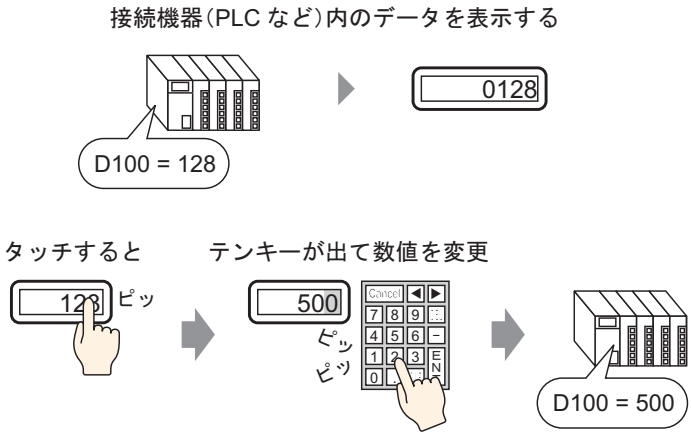
☞ **設定手順**（14-35 **ページ**）
☞ **詳細**（14-34 **ページ**）

スイッチで加算･減算して数値変更したい

☞ **設定手順**（14-39 **ページ**）
☞ **詳細**（14-38 **ページ**）

14.2 数値データを表示・入力したい

14.2.1 詳細



接続機器の指定ワードアドレスに格納されているデータを数値で表示します。
また、入力許可設定をすることで、画面上にテンキーを表示し指定ワードアドレスにデータを入力することもできます。

14.2.2 設定手順

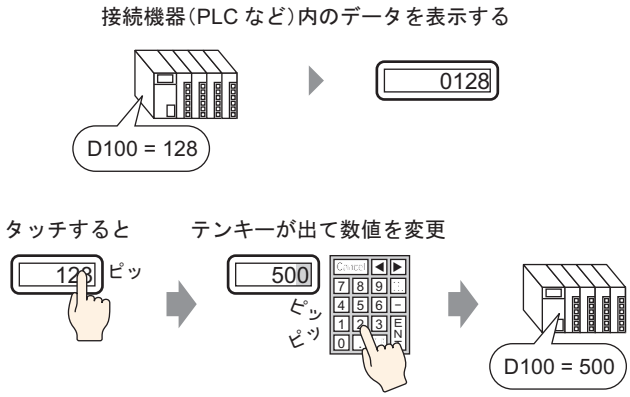
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「14.11.1 **数値表示**」（14-45 **ページ**）

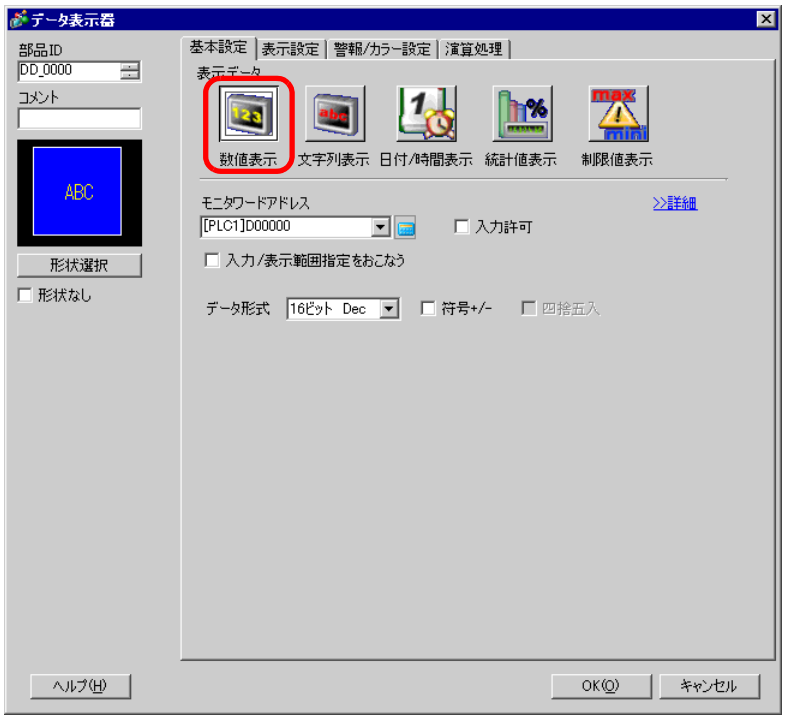
- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」（9-37 **ページ**）



1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

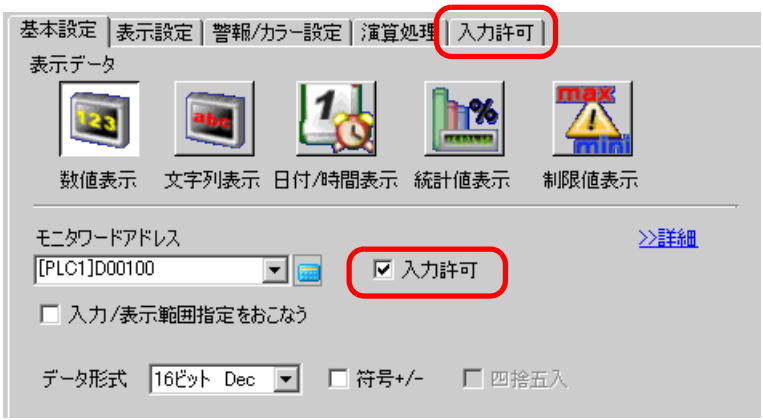
4 [モニタワードアドレス] に、数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

5 [データ形式] で表示するデータの形式（例「16 ビット Dec」）を設定します。

6 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され、「ポップアップキーボードを使用する」にチェックが入っていることを確認します。ポップアップキーボードから数値データを入力することができます。



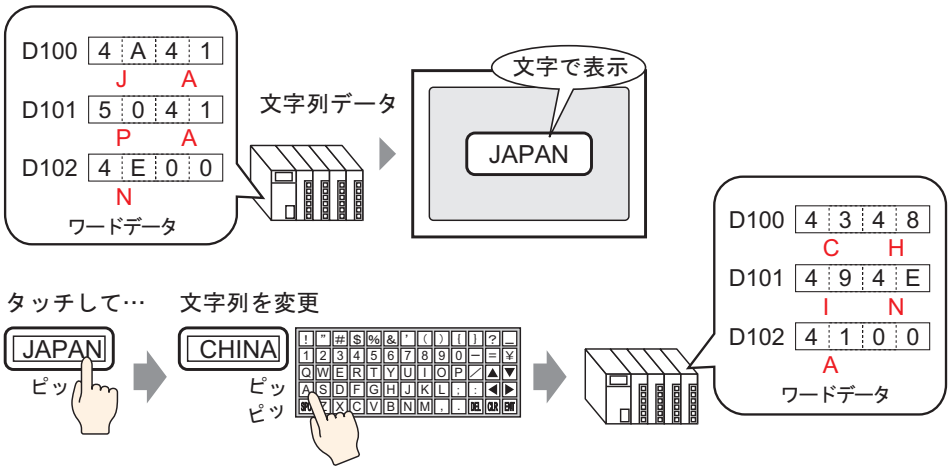
MEMO

- 数値データ表示のみを行う場合は設定しません。

7 必要に応じて [警報 / カラー設定] タブ、[表示設定] タブでデータ表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

14.3 文字列データを表示・入力したい

14.3.1 詳細



接続機器内の指定ワードアドレスに格納されている文字列データを文字列で表示します。
文字列データの変化に応じて、随時画面上の表示を切り替える方法と、起動ビットの変化があったタイミングで表示を切り替える方法があります。

また、入力許可設定をすることで画面上にキーボードを表示し、指定ワードアドレスに文字列データを入力することもできます。

14.3.2 設定手順

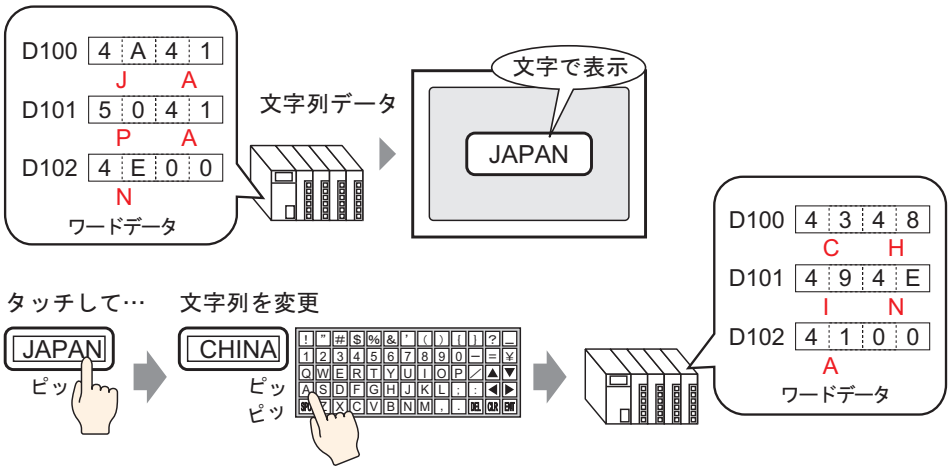
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「14.11.2 **文字列表示**」（14-77 **ページ**）

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」（9-37 **ページ**）

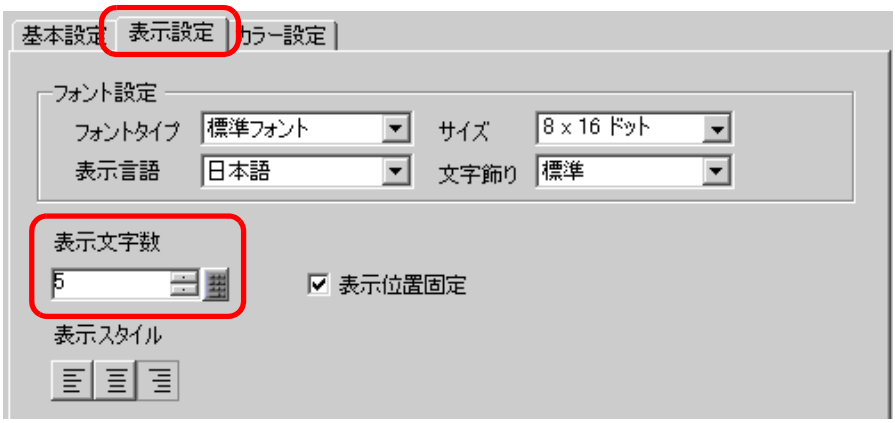


1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [文字列表示 (S)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [表示設定] タブをクリックして、[表示文字数] で半角文字数 1 ～ 100 で設定します。全角の場合は表示文字数 2 に対して 1 文字となります。

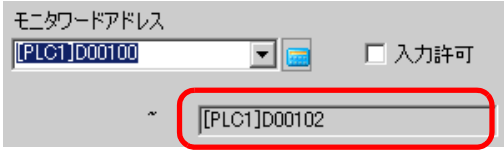


5 [基本設定] タブをクリックして、[モニタワードアドレス] に数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

6 モニタワードアドレスから表示文字数分使用するワードアドレスの最後尾のアドレスが表示されます。



MEMO

- 半角英数字であれば 2 文字で 1 ワード、全角文字であれば 1 文字で 1 ワード使用します。

7 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され、「ポップアップキーボードを使用する」にチェックが入っていることを確認します。ポップアップキーボードから文字列データを入力することができます。

MEMO

- 文字列データ表示のみを行う場合は設定しません。

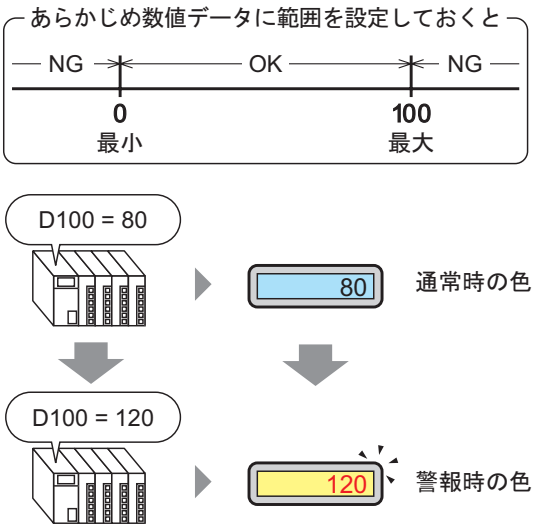
8 必要に応じて [カラー設定] タブ、[表示設定] タブでデータ表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

MEMO

- 文字列表示の制限事項については、「14.12.1 文字列表示の制限事項」（14-101 ページ）を参照してください。

14.4 数値データをアラーム表示したい

14.4.1 詳細



あらかじめ表示する数値データに範囲を設定します。
数値データが範囲外の場合に表示色を変更することで、範囲外であること（警報）を知らせます。

14.4.2 設定手順

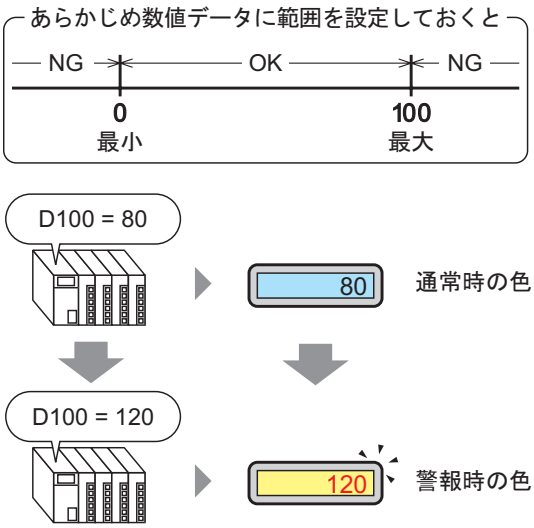
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「14.11.1 **数値表示 ■ 警報 / カラー設定 / 基本**」（14-69 **ページ**）

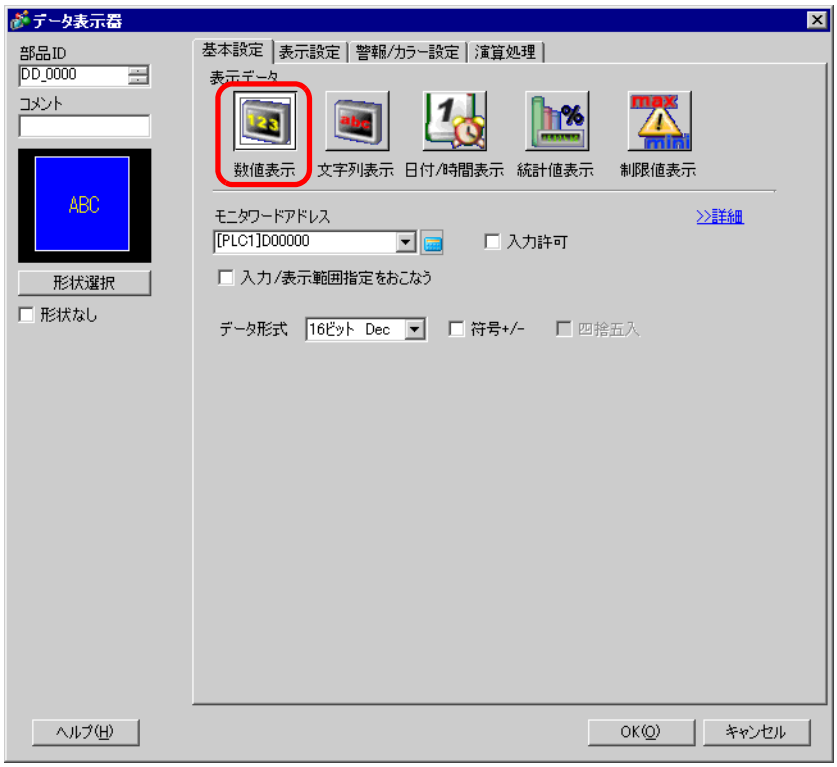
- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」（9-37 **ページ**）



1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



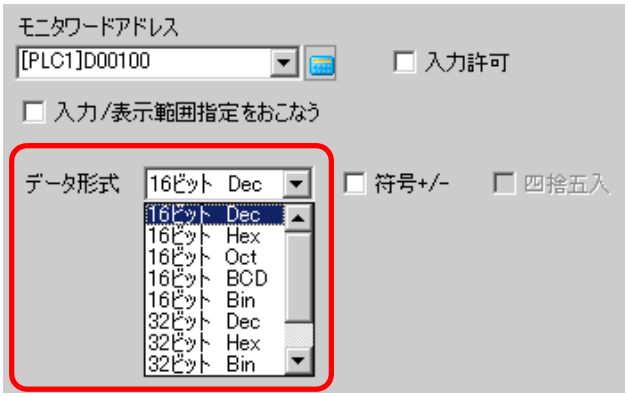
3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [モニタワードアドレス] に、数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

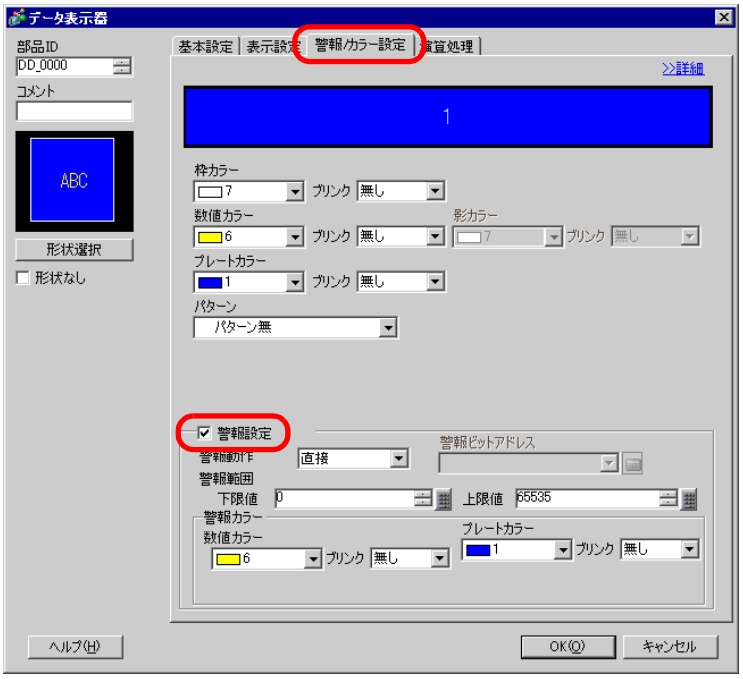
アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

5 [データ形式] で表示するデータの形式（例「16 ビット Dec」）を設定します。

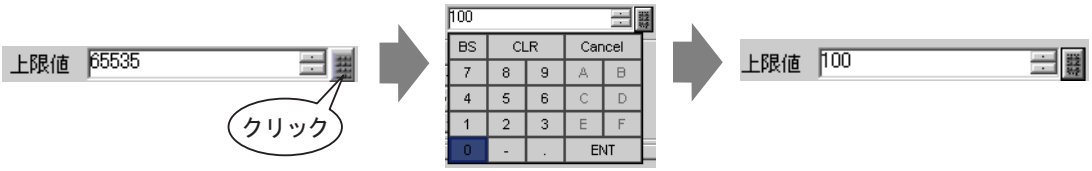


6 [警報 / カラー設定] タブをクリックし、[警報設定] にチェックを入れます。

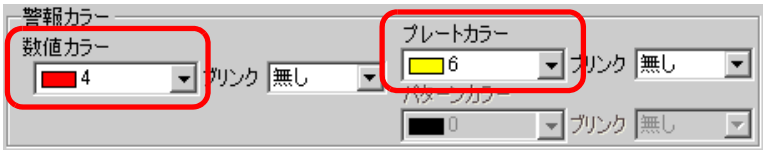


7 [警報動作] で上限値、下限値の指定方法を [直接]、[アドレス] から（例：直接）選択します。

8 [警報範囲] で上限値（例：100）、下限値（例：0）を設定します。



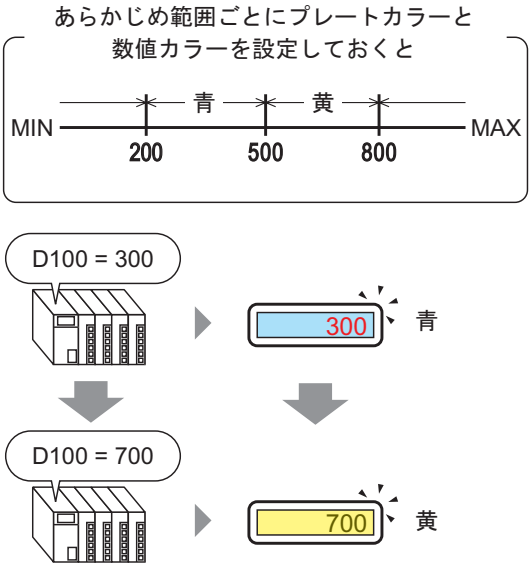
9 [警報カラー] で [数値カラー]（例：赤）、[プレートカラー]（例：黄）を設定します。



10 必要に応じて [表示設定] タブでデータ表示部品に表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

14.5 複数の範囲を色分けして表示したい

14.5.1 詳細



あらかじめ範囲ごとに色を設定しておくことで、設定した値になると色替えして表示することができます。
プレート／文字の色が変更できます。

14.5.2 設定手順

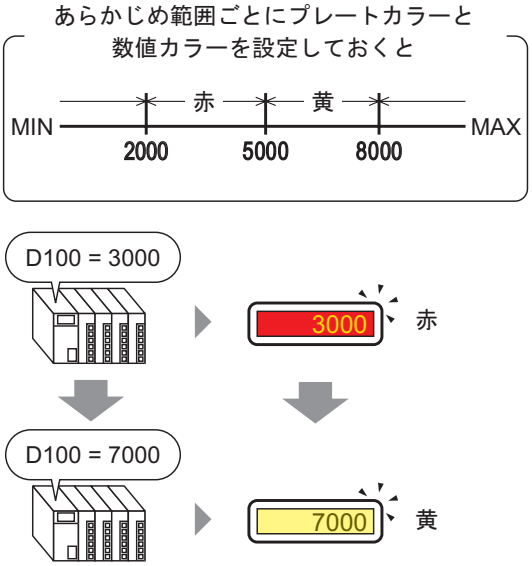
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「14.11.1 **数値表示**」（14-45 **ページ**）

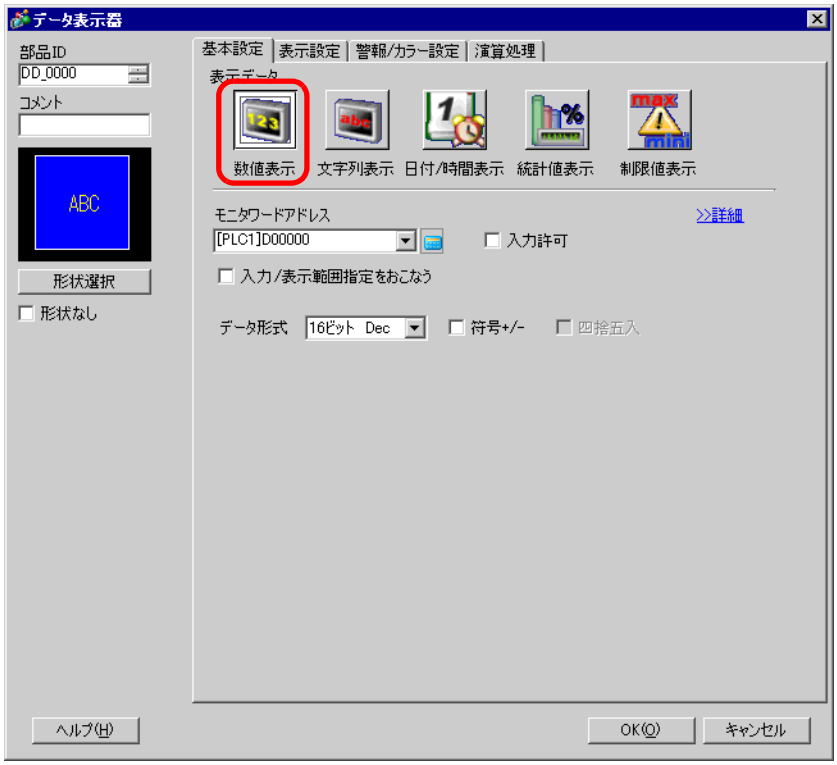
- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」（9-37 **ページ**）



1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



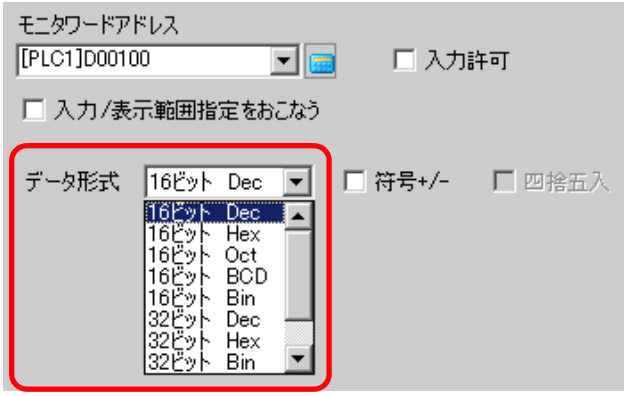
3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [モニタワードアドレス] に、数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

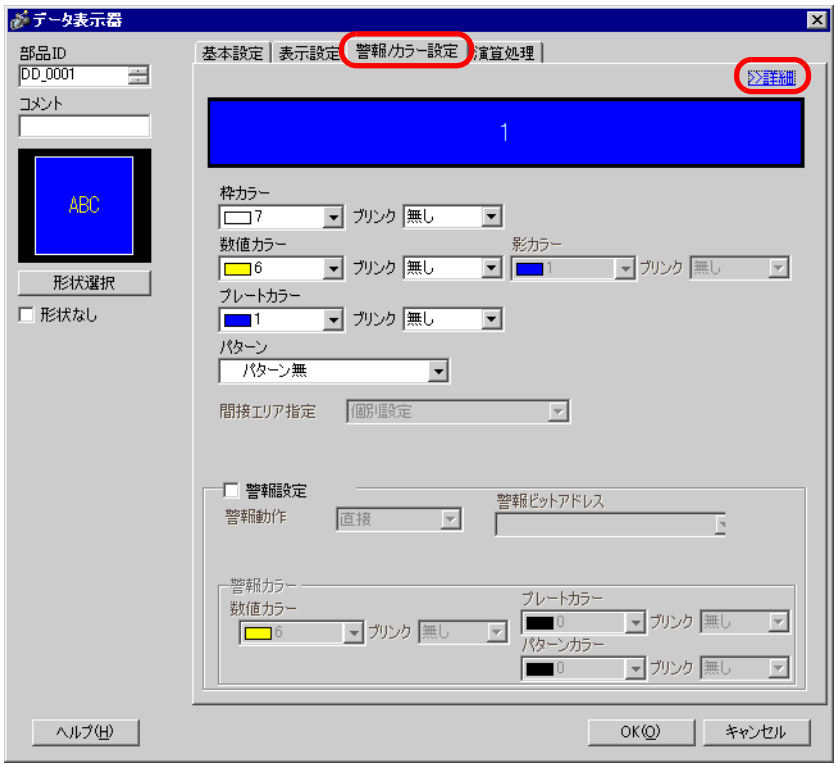
5 [データ形式] で表示するデータの形式（例「16 ビット Dec」）を設定します。



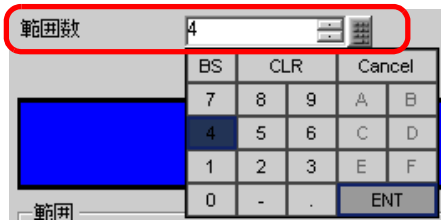
MEMO

- [入力 / 表示範囲指定をおこなう] を設定すると、数値データを指定の割合に換算して表示することができます。

6 [警報 / カラー設定] タブをクリックし、[詳細] をクリックします。



7 [範囲数] で範囲の数を（例：4）設定します。



8 [範囲指定] で最小値・最大値の範囲を指定する方法を [定数]、[アドレス] から（例：定数）選択します。

9 [警報カラー表示バー] で 1 を選択し、[範囲 01] の最小値・最大値を設定します。（例：最小値 0、最大値 2000）

10 [警報カラー] で [範囲 01] の [数値カラー]（例：黄）、[プレートカラー]（例：青）を設定します。

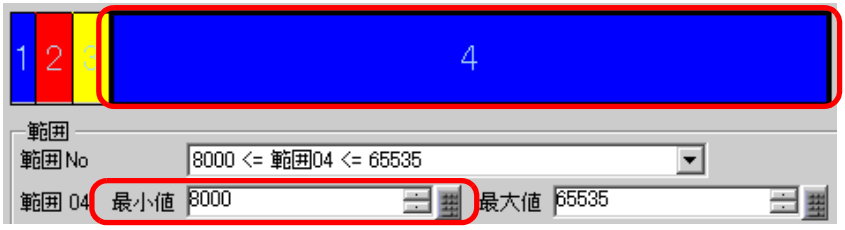
11 [警報カラー表示バー] で 2 を選択し、[範囲 02] の最小値・最大値を設定します。（例：最小値 2000、最大値 5000）

12 [警報カラー] で [範囲 02] の [数値カラー]（例：黄）、[プレートカラー]（例：赤）を設定します。

13 [警報カラー表示バー] で 3 を選択し、[範囲 03] の最小値・最大値を設定します。（例：最小値 5000、最大値 8000）

14 [警報カラー] で [範囲 03] の [数値カラー]（例：黒）、[プレートカラー]（例：黄）を設定します。

15 [警報カラー表示バー] で 4 を選択し、[範囲 04] の最小値を設定します。（例：最小値 8000）



16 [警報カラー] で [範囲 04] の [数値カラー]（例：黄）、[プレートカラー]（例：青）を設定します。

17 必要に応じて [表示設定] タブでデータ表示部品に表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

14.6 日付・曜日・時間を表示したい

14.6.1 詳細

2005/01/20（Thu）09:32

システムデータエリアの所定の場所へ GP の時計やカレンダーデータが格納されます。

14.6.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「14.11.3 **日付 / 時間表示**」(14-92 **ページ**)

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」(9-37 **ページ**)

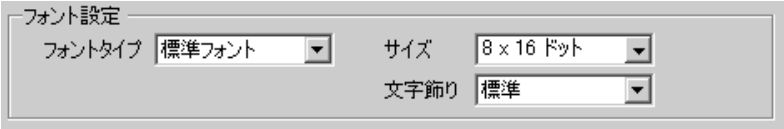
2005/01/20 (Thu) 09:32

1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [日付 / 時間表示 (D)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

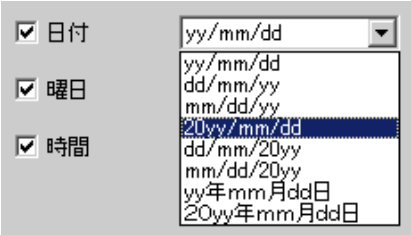
2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [フォント設定] で表示する日付 / 時間のフォントを設定します。（例：標準フォント、サイズ 8 × 16 ドット、文字飾り　標準）



5 [日付] で表示する日付のフォーマットを選択します。（例：20yy/mm/dd）



6 曜日を表示する場合は [曜日] にチェックを入れます。（例：曜日を表示する）

7 [時間] で表示する時間のフォーマットを選択します。（例：hh:mm）

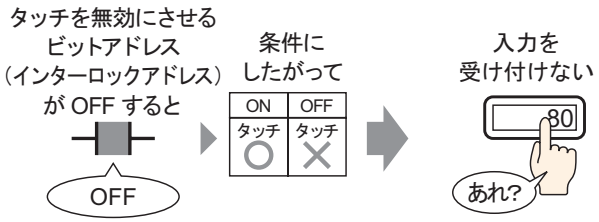
8 必要に応じて [カラー設定] タブでデータ表示部品の色を設定し、[OK] をクリックします。

14.7 誤操作を防止したい（インターロック）

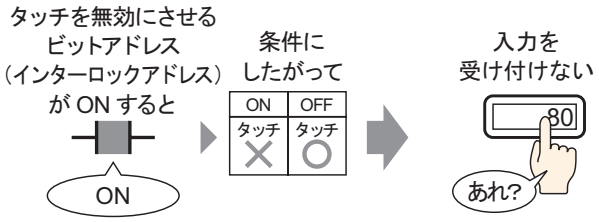
14.7.1 詳細

インターロックアドレスで設定されたビットアドレスがタッチ有効条件に成立した場合のみタッチ操作を有効にします。

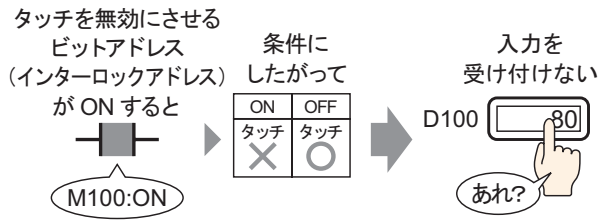
- **タッチ有効条件が「ビット ON」の場合**
  設定したインターロックアドレスが ON のときだけタッチ操作ができます。



- **タッチ有効条件が「ビット OFF」の場合**
  設定したインターロックアドレスが OFF のときだけタッチ操作ができます。



14.7.2 設定手順



MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

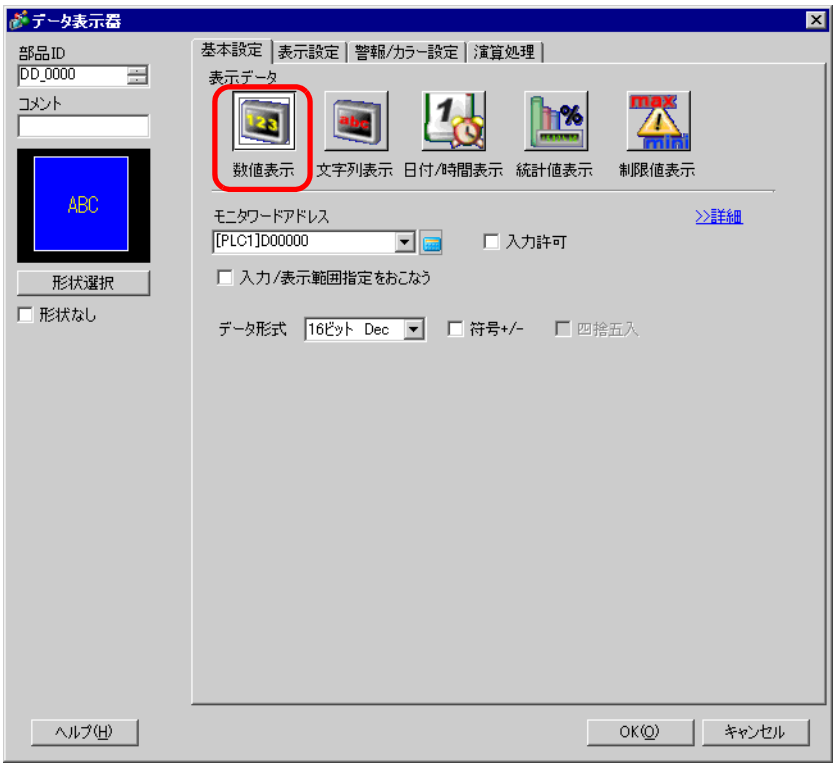
  ☞「14.11.1 **数値表示**」（14-45 **ページ**）

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」（9-37 **ページ**）

1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

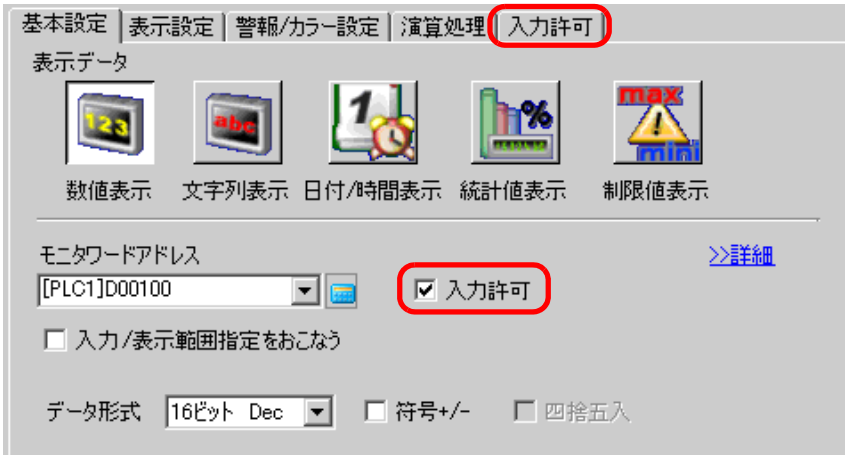
4 [モニタワードアドレス] に、数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

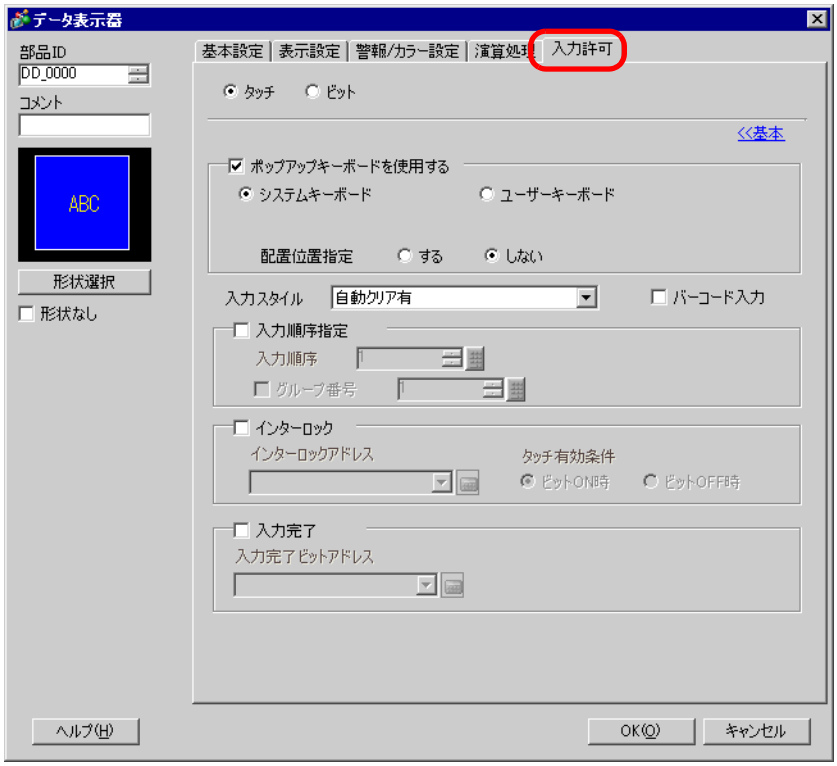
デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

5 [データ形式] で表示するデータの形式（例「16 ビット Dec」）を設定します。

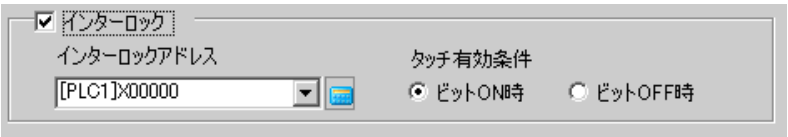
6 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され、「ポップアップキーボードを使用する」にチェックが入っていることを確認します。ポップアップキーボードから数値データを入力することができます。



7 [詳細] をクリックすると次のようなダイアログボックスが表示されます。



8 [インターロック] にチェックを入れ [インターロックアドレス] に入力を許可するタッチの有効条件となるビットアドレス（M100）を設定します。

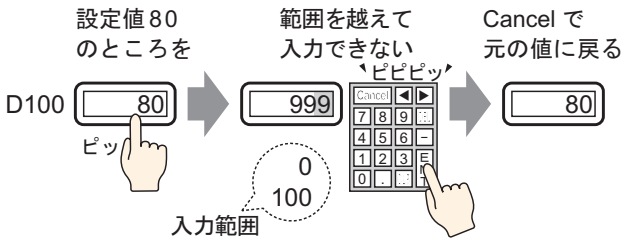


9 [タッチ有効条件] で入力を許可するタッチが有効となる条件を設定します。（例：ビット OFF の時にタッチが有効なので、[ビット OFF 時]）

10 必要に応じて [警報 / カラー設定] タブ、[表示設定] タブでデータ表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

14.8 設定の範囲を超えたら入力させない

14.8.1 詳細



14.8.2 設定手順

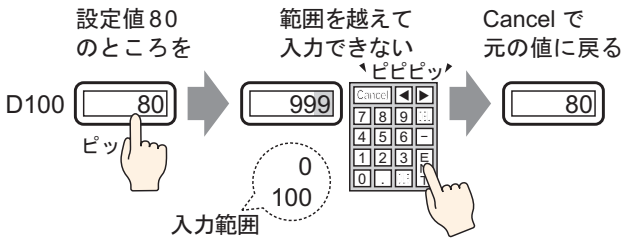
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「14.11.1 **数値表示**」（14-45 **ページ**）

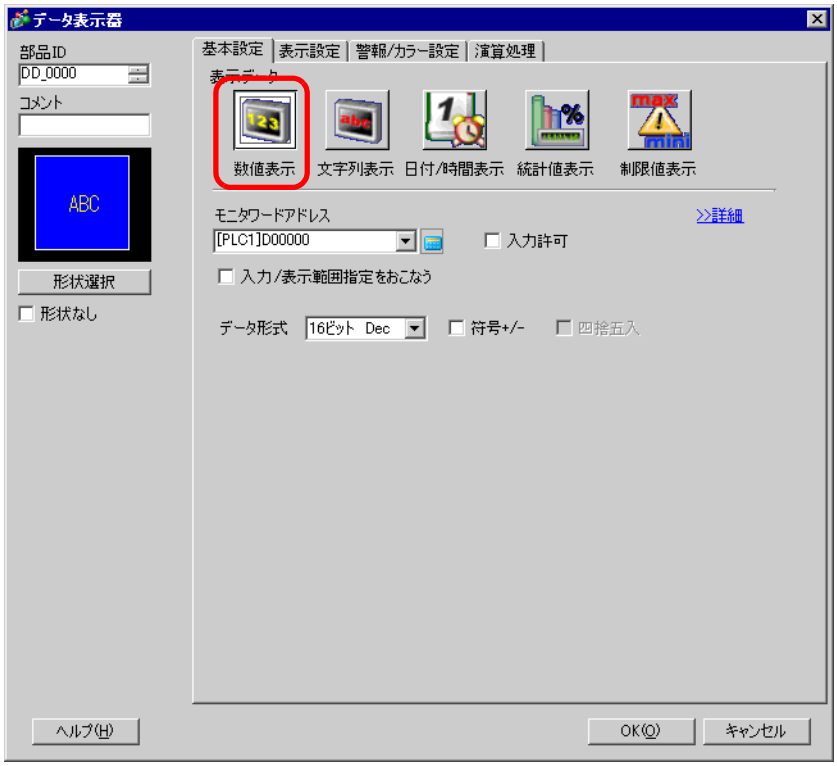
- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」（9-37 **ページ**）



1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

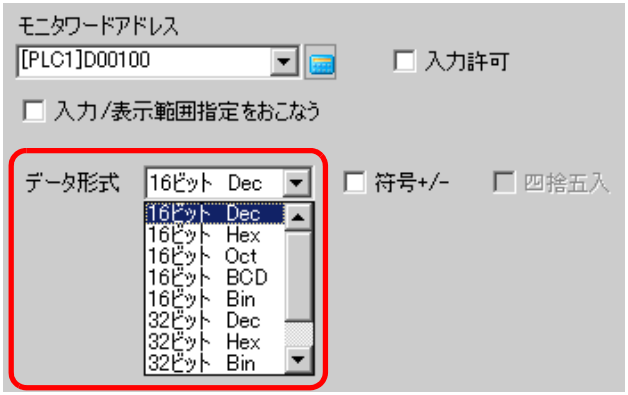
2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



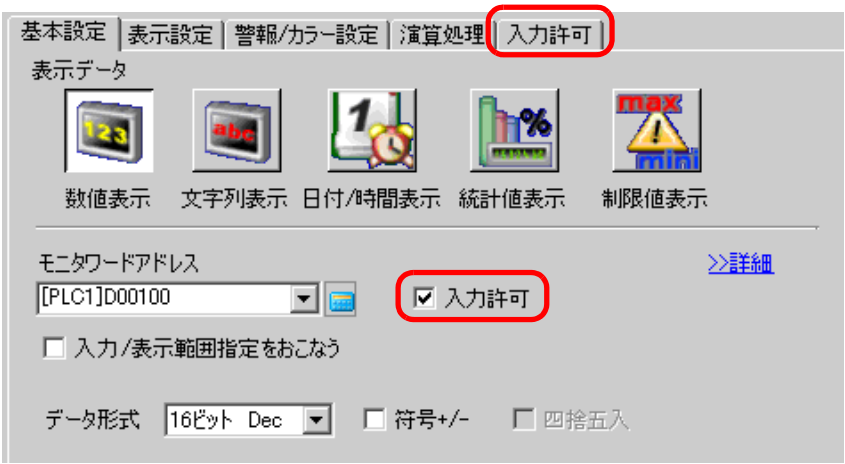
3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [モニタワードアドレス] に、数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

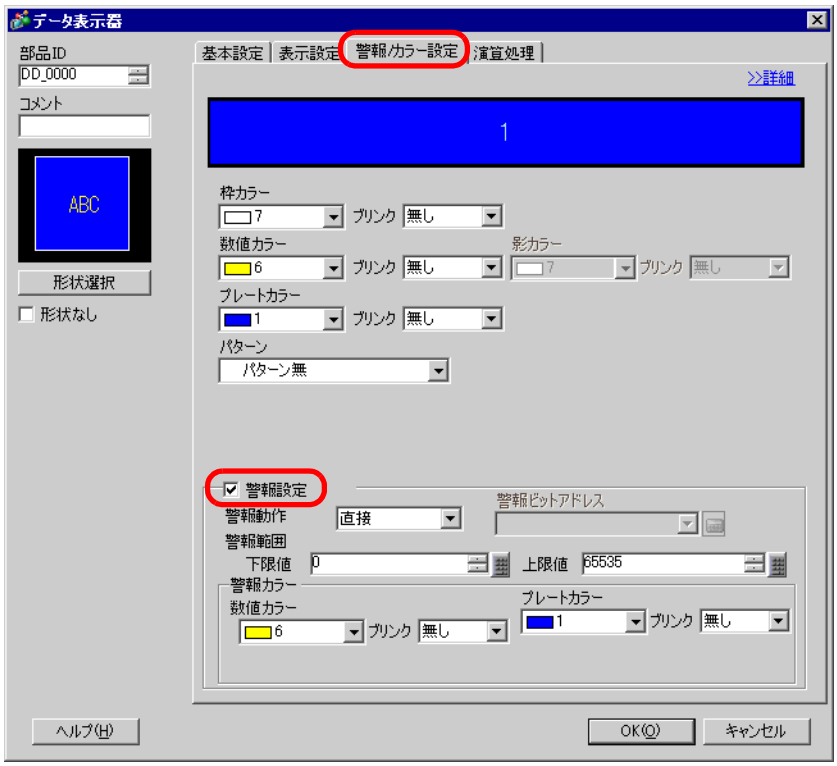
5 [データ形式] で表示するデータの形式（例「16 ビット Dec」）を設定します。



6 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され、「ポップアップキーボードを使用する」にチェックが入っていることを確認します。ポップアップキーボードから数値データを入力することができます。

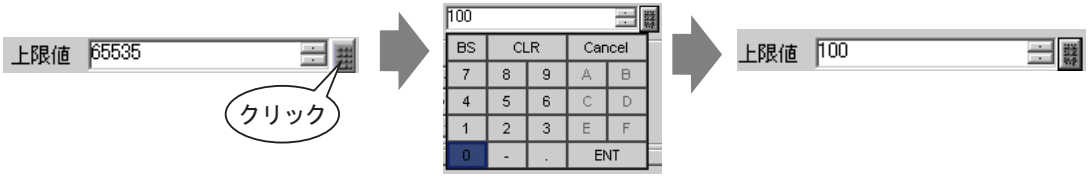


7 [警報 / カラー設定] タブをクリックし、[警報設定] にチェックを入れます。



8 [警報動作] で上限値、下限値の指定方法を [直接]、[アドレス] から（例：直接）選択します。

9 [警報範囲] で上限値（例：100）、下限値（例：0）を設定します。



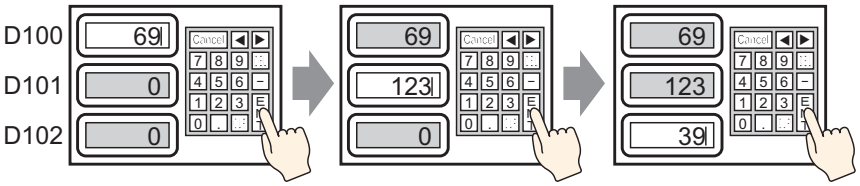
10 必要に応じて [警報 / カラー設定] タブ、[表示設定] タブでデータ表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

MEMO

- PLC 側から入力された数値については入力規制は行われません。

14.9 続けて、順番に入力したい

14.9.1 詳細



入力し [Enter] キーをタッチ

入力が確定され、次の入力順のデータ表示部品が入力状態になる。→入力し [Enter] キーをタッチ

14.9.2 設定手順

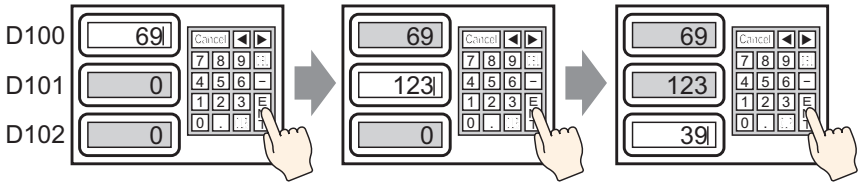
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「14.11.1 **数値表示**」(14-45 **ページ**)

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」(9-37 **ページ**)

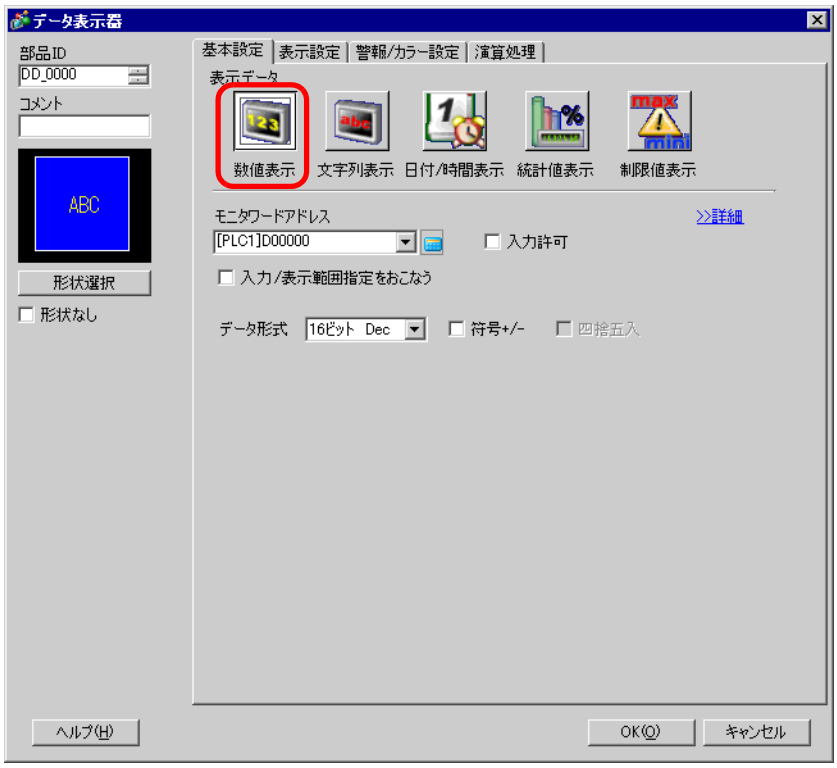


入力し [Enter] キーをタッチ

入力が確定され、次の入力順のデータ表示部品が入力状態になる。→入力し [Enter] キーをタッチ

1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

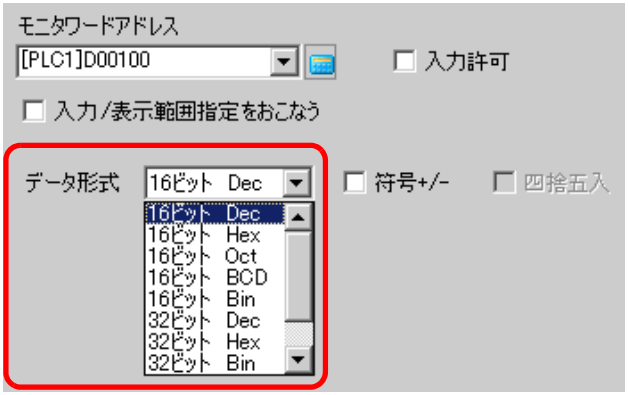
2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



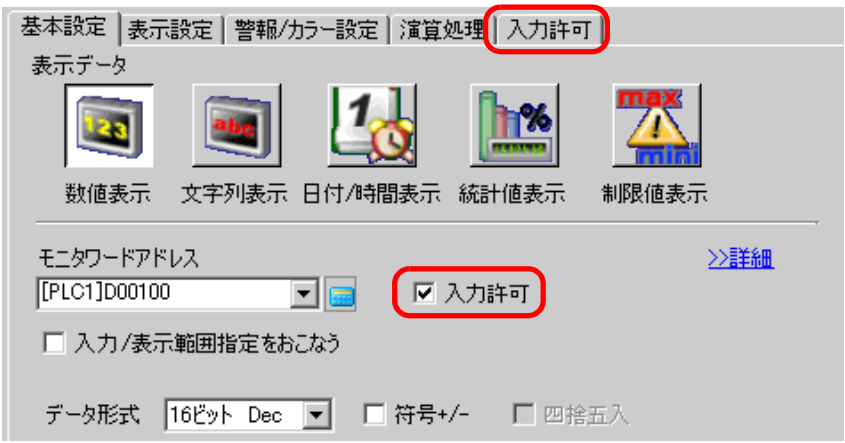
3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [モニタワードアドレス] に数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

5 [データ形式] で表示するデータの形式（例「16 ビット Dec」）を設定します。



6 [入力許可] にチェックを入れます。[入力許可] にチェックを入れると、[入力許可] タブが表示され、「ポップアップキーボードを使用する」にチェックが入っていることを確認します。ポップアップキーボードから数値データを入力することができます。



7 [入力順序指定] にチェックを入れます。

8 [入力順序] で入力可能状態になる順番を（例：１）設定します。

9 必要に応じて [警報 / カラー設定] タブ、[表示設定] タブでデータ表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

MEMO

- 同じように 2 つ目に入力許可するデータ表示部品には [モニタワードアドレス] に「D101」、[入力順序] に「2」を、3 つ目のデータ表示部品にはモニタワードアドレス「D102」、[入力順序] に「3」を設定します。
- 入力順序設定のしくみについては「14.13.1 入力順序を設定する」（14-104 ページ）を参照してください。

14.10 スイッチで加算・減算して数値変更したい

14.10.1 詳細

ワードスイッチのデータ加算 / 減算機能を使って、データ表示部品が直接参照しているデータを変更できます。小規模な設定値変更などに便利です。
増減の値は任意に設定できます。桁上りや桁下りをします。

14.10.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

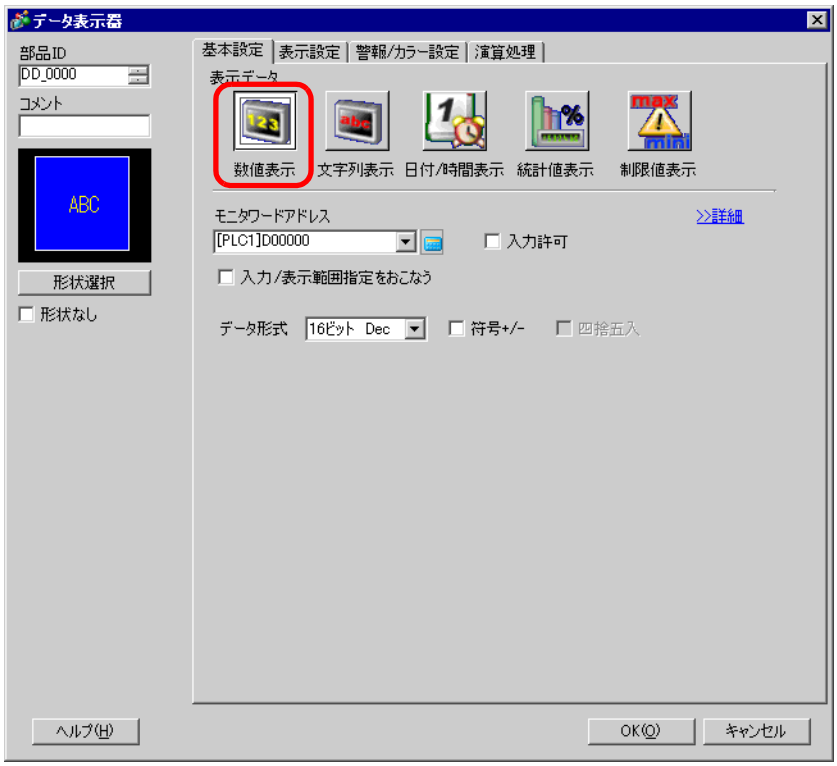
  ☞「14.11.1 **数値表示**」(14-45 **ページ**)

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「9.6.1 **部品の編集手順**」(9-37 **ページ**)

1 [部品 (P)] メニューの [データ表示器 (D)] から [数値表示 (N)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

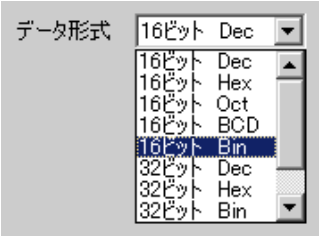
2 配置したデータ表示部品をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [モニタワードアドレス] に、数値表示したい値が格納されるアドレス（D100）を設定します。

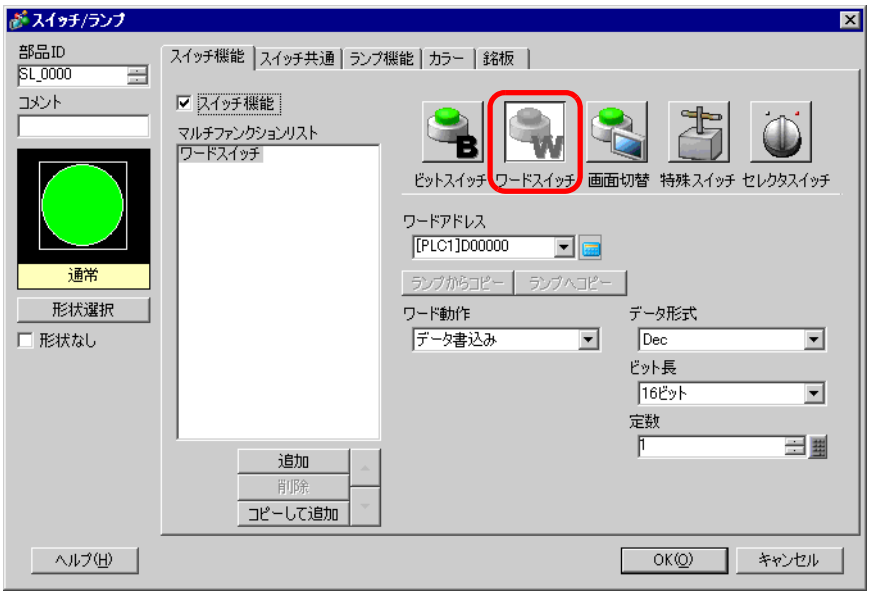
5 [データ形式] で表示するデータの形式（例「16 ビット Bin」）を設定します。



6 必要に応じて [警報 / カラー設定] タブ、[表示設定] タブでデータ表示部品の色や表示させる文字を設定し、[OK] をクリックします。

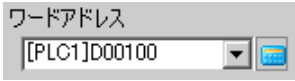
7 続いて、加算の操作を行うスイッチを設定します。[部品 (P)] メニューの [スイッチランプ] から [ワードスイッチ] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

8 配置したスイッチをダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

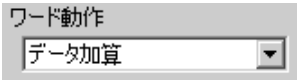


9 [形状選択] でスイッチの形状を選択します。

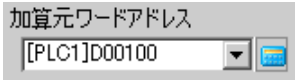
10 [ワードアドレス] にタッチでデータを書き込みたいアドレス（D100）を設定します。



11 [ワード動作] で [データ加算] を選択します。



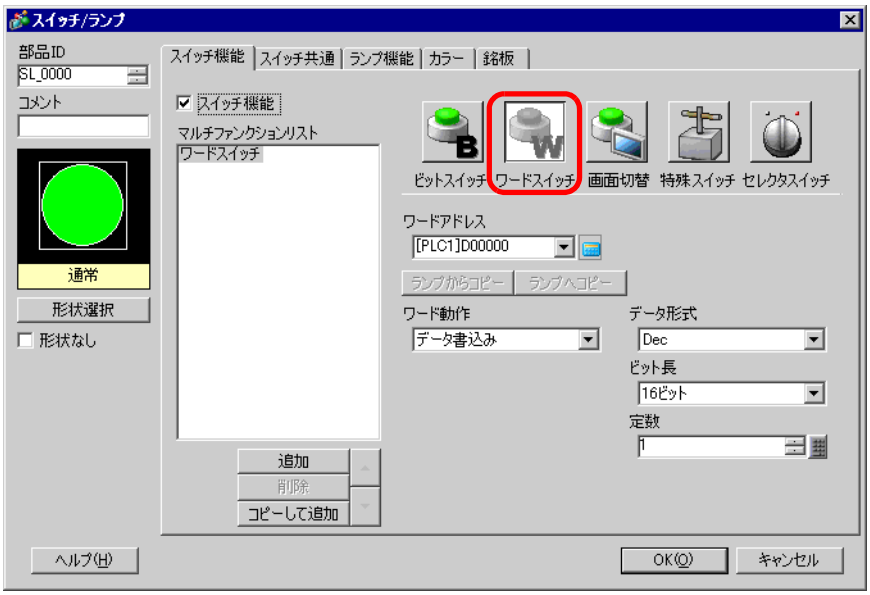
12 [加算元ワードアドレス] にデータを加算するアドレス（D100）を設定します。



13 [データ形式] を [Bin]、[定数] に「1」を入力し、[OK] をクリックします。加算操作のワードスイッチの機能は設定完了です。

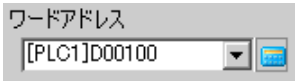
14 さらに減算の操作を行うスイッチを設定します。[部品 (P)] メニューの [スイッチランプ] から [ワードスイッチ] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

15 配置したスイッチをダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

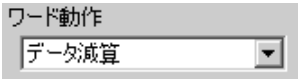


16 [形状選択] でスイッチの形状を選択します。

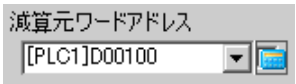
17 [ワードアドレス] にタッチでデータを書き込みたいアドレス（D100）を設定します。



18 [ワード動作] で [データ減算] を選択します。

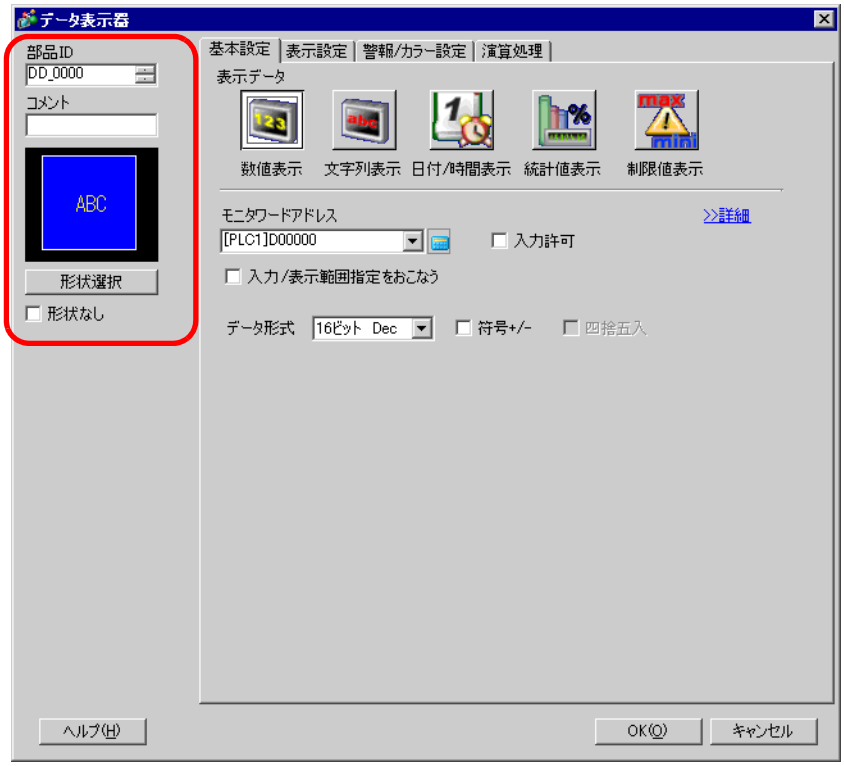


19 [減算元ワードアドレス] にデータを減算するアドレス（D100）を設定します。



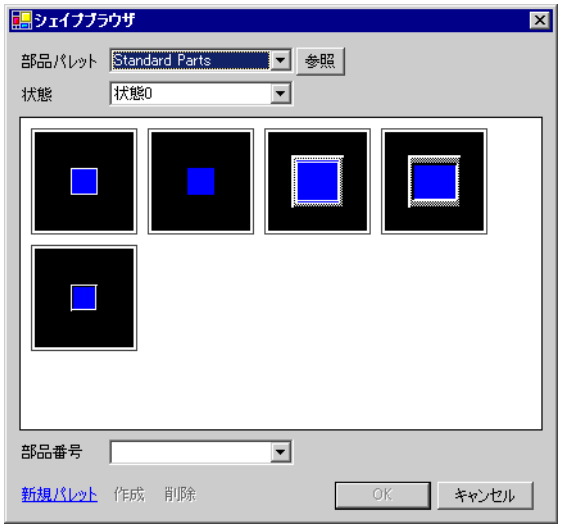
20 [データ形式] を [Bin]、[定数] に「1」を入力し、[OK] をクリックします。減算操作のワードスイッチの機能も設定完了です。

14.11 データ表示器の設定ガイド



設定項目	設定内容
部品 ID	配置された部品には ID 番号が自動的に割り当てられます。 **データ表示部品の** ID：DD_****（数字 4 桁） 英字部分は固定です。数字部分は 0000 ～ 9999 範囲で変更できます。
コメント	部品に対するコメントを最大 20 文字まで設定できます。
形状表示	[形状選択] で選択した部品の形状と状態が表示されます。

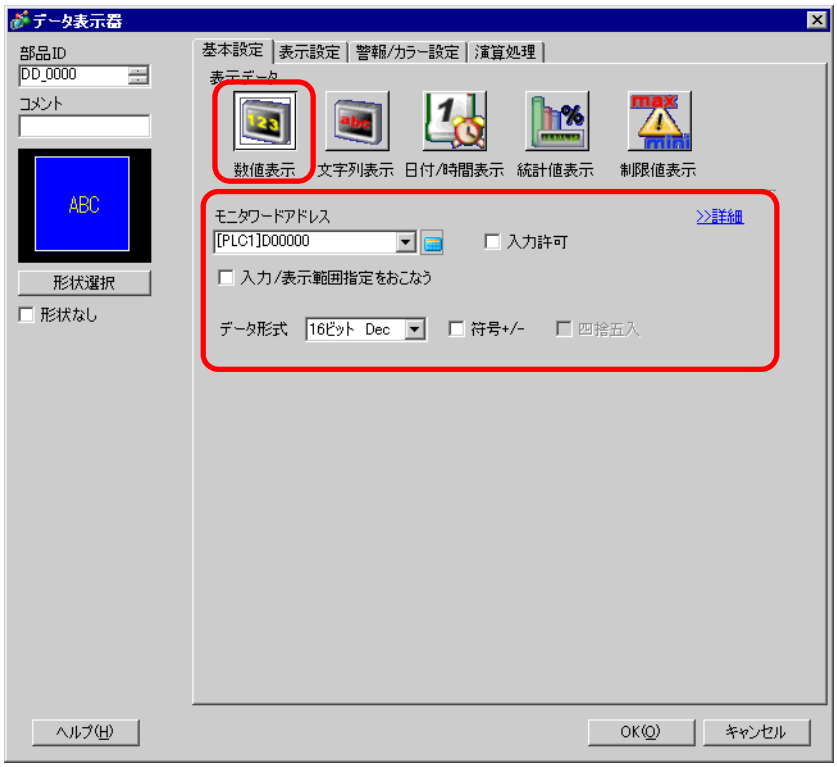
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
形状選択	形状選択用のダイアログボックスが開き、部品の形状を選択します。 
表示データ	データ表示部品の種類を選択します。 • **数値表示** ワードアドレスに格納された数値データを表示します。 ☞「14.11.1 **数値表示**」（14-45 **ページ**） • **文字列表示** ワードアドレスに格納された文字列データを表示します。 ☞「14.11.2 **文字列表示**」（14-77 **ページ**） • **日付 / 時間表示** GP の時計データを参照して、日付・時間を表示します。 ☞「14.11.3 **日付 / 時間表示**」（14-92 **ページ**） • **統計値表示** 連続する複数のワードアドレスに格納されたデータの統計を取って、数値を表示します。 ☞「14.11.4 **統計値表示**」（14-95 **ページ**） • **制限値表示** [警報設定] を行った数値表示部品と同じ画面上に、設定した警報値（表示データの上限値・下限値）を表示します。 ☞「14.11.5 **制限値表示**」（14-99 **ページ**）
形状なし	形状のない透明な部品にするかどうかを指定します。

14.11.1 数値表示

■ 基本設定 / 基本

接続機器内の指定ワードアドレスに入っている数値データを表示します。

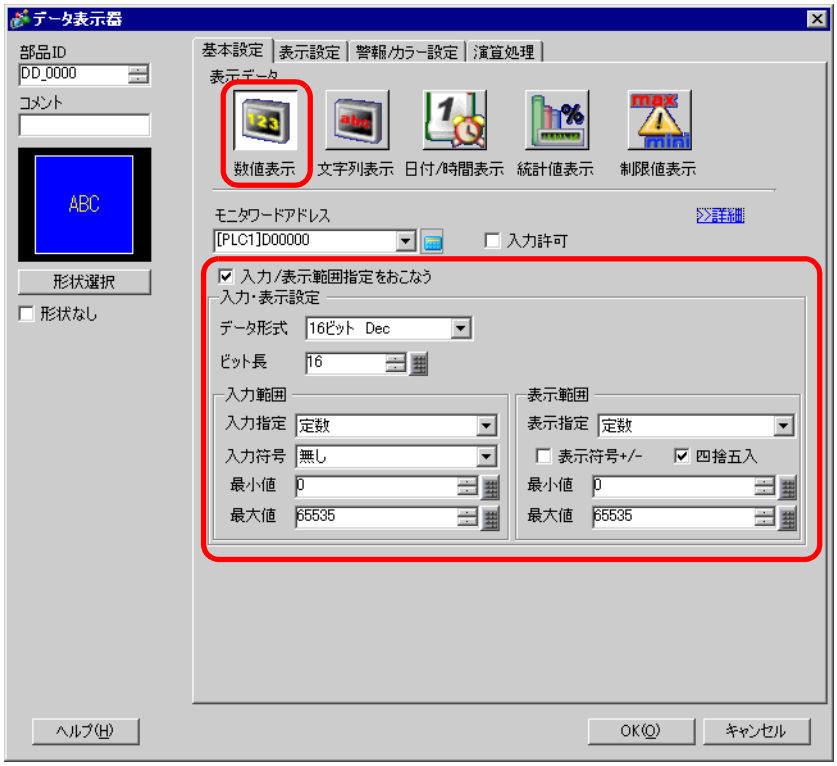


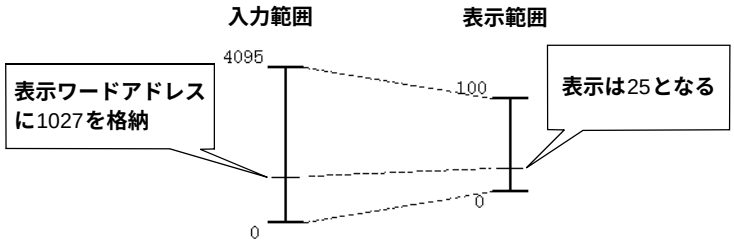
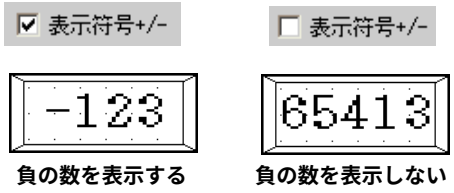
設定項目	設定内容
モニタワードアドレス	ここで設定したワードアドレスに格納されているデータをリアルタイムに数値表示します。 **MEMO** • リアル変数は 64 ビット長のため表示できません。
入力許可	数値表示部品に対してキーボードやバーコードリーダからの入力を受け付ける設定を行います。 **MEMO** • [表示設定] タブ [詳細] の [表示フォーマット] を指定している場合は設定できません。 ☞「**■ 入力許可 / 基本**」(14-56 **ページ**)
入力・表示範囲指定を行う	入力・表示範囲指定を行うと [モニタワードアドレス] のデータを入力範囲と表示範囲に応じて自動換算し、その結果を数値表示できます。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>データ形式</td><td>表示するデータの形式を選択します。
<table>
<tr><th>ビット長</th><th>データ形式</th></tr>
<tr><td>16 ビット</td><td>Dec、Hex、Oct、Bin、BCD</td></tr>
<tr><td>32 ビット</td><td>Dec、Hex、Bin、BCD、Float</td></tr>
</table>
MEMO
• 32 ビットデータを取り扱うときのワードアドレスの上位・下位の関係はデータ読み取り接続機器によって異なります。ご使用の接続機器のマニュアルをご確認ください。</td></tr>
<tr><td>符号 +/–</td><td>表示するデータに－符号を付けるかどうか設定します。負の数のデータを表示する場合に設定します。負の数のデータは 2 の補数による方式で扱われます。
[データ形式] が [Dec] の場合のみ設定できます。</td></tr>
<tr><td>四捨五入</td><td>データを表示する際、端数を四捨五入するかどうかを設定します。四捨五入しない場合は端数は切り捨てとなります。
[データ形式] が [Float] の場合のみ設定できます。</td></tr>
</table>

数値データを相対値で表示する設定を行います。



<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td colspan="2">入力 / 表示範囲指定を行う</td><td>入力 / 表示範囲指定を行うと [モニタワードアドレス] のデータを入力範囲と表示範囲に応じて自動換算し、その結果を数値表示できます。（相対値表示）
例）
 
</td></tr>
<tr><td colspan="2">データ形式</td><td>数値表示するデータの形式を選択します。
<table>
<tr><th>ビット長</th><th>データ形式</th></tr>
<tr><td>16 ビット</td><td>Dec、Hex、Oct、Bin、BCD</td></tr>
<tr><td>32 ビット</td><td>Dec、Hex、Bin、BCD、Float</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td colspan="2">ビット長</td><td>表示するアドレスの有効ビット長を 1 ～ 16 で設定します。
[データ形式] が [16 ビット] の場合のみ設定できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">入力範囲</td><td>入力指定</td><td>入力範囲の最小値・最大値を指定する方法を選択します。
• 定数
最小値・最大値として固定の数値を書き込んで指定します。（直接指定）
• アドレス
最小値・最大値が格納されているアドレスを指定します。（間接指定）</td></tr>
<tr><td>入力符号</td><td>入力するデータの値に、負の数も扱えるようにするかどうかを設定します。
• 無し
正の数のデータのみです。
• 2 の補数
負の数は 2 の補数で扱われます。
• MSB 符号
負の数は MSB 符号で扱われます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">表示範囲</td><td>表示指定</td><td>表示範囲の最小値・最大値を指定する方法を選択します。
• 定数
最小値・最大値として固定の数値を書き込んで指定します。（直接指定）
• アドレス
最小値・最大値が格納されているアドレスを指定します。（間接指定）</td></tr>
<tr><td>四捨五入</td><td>データを表示するときに端数を切り捨てるか四捨五入するかを指定します。</td></tr>
<tr><td>表示符号 +/–</td><td>負の数を表示するかどうかを指定します。
[データ形式] が [Dec] の場合に設定できます。
例）
「–123」というデータが書き込まれた場合
 
</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
入力範囲／表示範囲	**最小値・最大値**	数値表示するデータの入力範囲および表示範囲を設定します。 [入力指定] や [表示指定] が [定数] の場合は最小値・最大値を入力します。 [アドレス] の場合は最小値・最大値が格納されるワードアドレスを指定します。 [データ形式]、[入力符号]、および [表示符号 +/–] により設定範囲が異なります。

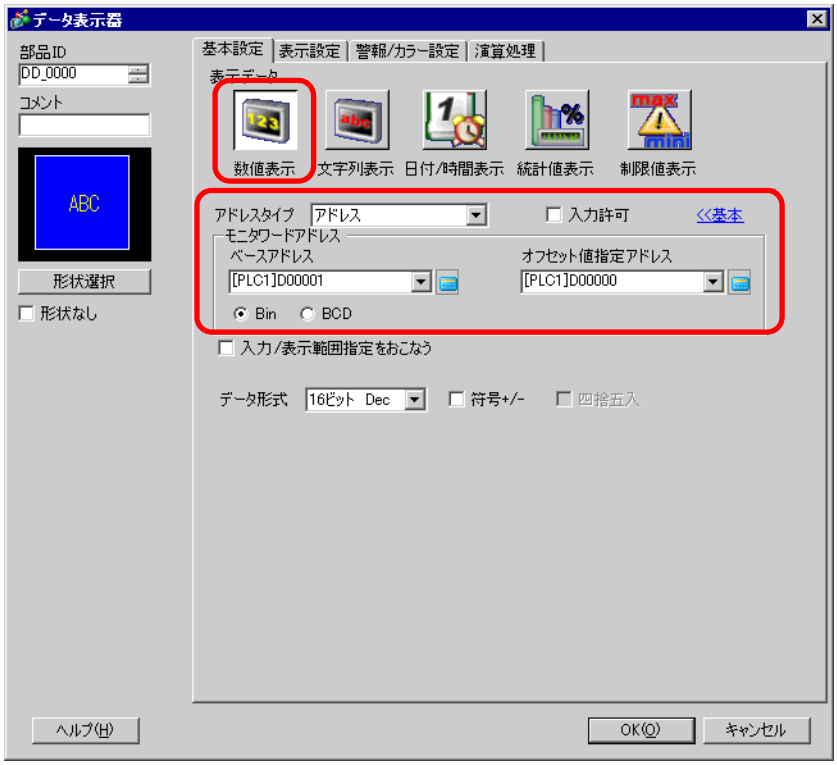
ビット長	データ形式	入力符号	入力範囲	表示符号 +/–	表示範囲
16 ビット	Dec	無し	0 ～ 65535	無	0 ～ 65535
				有	–32768 ～ 32767
		2 の補数	–32768 ～ 32767	無	0 ～ 65535
				有	–32768 ～ 32767
		MSB 符号	–32767 ～ 32767	無	0 ～ 65535
				有	–32768 ～ 32767
	Hex	無し	0 ～ 65535	―	0 ～ FFFF(h)
		2 の補数	–32768 ～ 32767	―	0 ～ FFFF(h)
		MSB 符号	–32767 ～ 32767	―	0 ～ FFFF(h)
	Oct	無し	0 ～ 65535	―	0 ～ 177777(o)
		2 の補数	–32768 ～ 32767	―	0 ～ 177777(o)
		MSB 符号	–32767 ～ 32767	―	0 ～ 177777(o)
	BCD	―	0 ～ 9999	―	0 ～ 9999
	Bin	無し	0 ～ 65535	―	0 ～ FFFF(h)
		2 の補数	–32768 ～ 32767	―	0 ～ FFFF(h)
		MSB 符号	–32767 ～ 32767	―	0 ～ FFFF(h)
32 ビット	Dec	無し	0 ～ 4294967295	無	0 ～ 4294967295
				有	–2147483648 ～ 2147483647
		2 の補数	–2147483648 ～ 2147483647	無	0 ～ 4294967295
				有	–2147483648 ～ 2147483647
		MSB 符号	–2147483647 ～ 2147483647	無	0 ～ 4294967295
				有	–2147483648 ～ 2147483647
	Hex	無し	0 ～ 4294967295	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		2 の補数	–2147483648 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		MSB 符号	–2147483647 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
	BCD	―	0 ～ 99999999	―	0 ～ 99999999
	Bin	無し	0 ～ 4294967295	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		2 の補数	–2147483648 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		MSB 符号	–2147483647 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
	Float	―	$-9.9e^{16}$ ～ $9.9e^{16}$	―	$-9.9e^{16}$ ～ $9.9e^{16}$

MEMO

- 入力範囲と表示範囲は入力された値をどのように自動換算して表示するかを決めるものです。入力範囲外の値が入力されてもそのまま自動換算され、表示範囲外の値で表示されます。

■ 基本設定 / 詳細

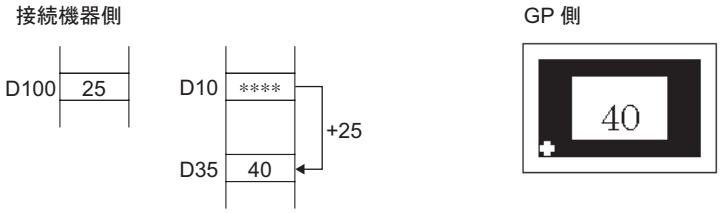
数値データ表示するアドレスを間接的に指定することができます。間接指定方法は２つあります。



設定項目		設定内容
アドレスタイプ		表示するアドレス（モニタワードアドレス）を指定する方法を [直接指定]、[アドレス]、[デバイスタイプ＆アドレス] から選択します。
入力許可		キーボードやバーコード /2 次元コードリーダからの入力を受け付けるかどうかを設定します。ここにチェックを入れると、[入力許可] タブが表示されます。 **MEMO** • [表示設定] タブ [詳細] の [表示フォーマット] を指定している場合は設定できません。 ☞「■ **表示設定 / 詳細**」（14-65 **ページ**）
モニタワードアドレス		ここで設定したワードアドレスに格納されているデータをリアルタイムに数値表示します。モニタワードアドレスを間接的に指定するには [アドレスタイプ] で [アドレス]、[デバイスタイプ＆アドレス] を選択します。
	アドレス	[ベースアドレス] で指定したデバイスと同一デバイス内で間接指定します。

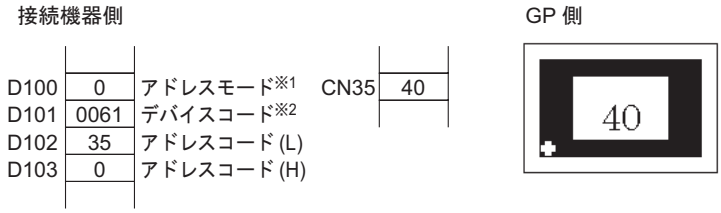
次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="6">モニタワードアドレス</td><td rowspan="3">アドレス</td><td>ベースアドレス</td><td>

[ベースアドレス] は間接指定の基準となるアドレスです。
[オフセット値指定アドレス] には [ベースアドレス] からのオフセット値を格納しているアドレスを設定します。
例）
[モニタワードアドレス]D35 を間接指定する場合
[ベースアドレス]‥D10　　[オフセット値指定アドレス]‥D100
[オフセット値指定アドレス] 内のデータが、[ベースアドレス] からのオフセット値として扱われます。</td></tr>
<tr><td>オフセット値指定アドレス</td><td>


[ベースアドレス]D10 から [オフセット値指定アドレス]D100 内のデータ分「25」が加算され、加算されたアドレス D35 のデータ「40」を表示します。
重　要
• **[ベースアドレス]+[オフセット値] が桁あふれする（16 ビットを超える）場合、正しいモニタワードアドレスを求めることができません。この場合モニタワードアドレスは不定になります。**</td></tr>
<tr><td>Bin, BCD</td><td>[オフセット値指定アドレス] に格納されるデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">デバイスタイプ＆アドレス</td><td>デバイスとアドレス両方を間接指定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>接続機器</td><td>[アドレスタイプ] が [デバイスタイプ & アドレス] の場合、どの接続機器のアドレスを間接指定するかを選択します。</td></tr>
</table>

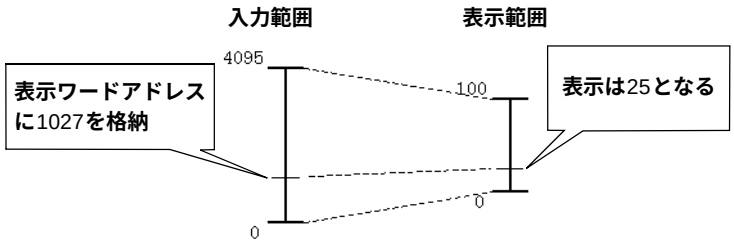
次のページに続きます。

設定項目			設定内容
モニタワードアドレス	**デバイスタイプ＆アドレス**	**デバイス指定先頭アドレス**	 [デバイス指定先頭アドレス] は表示アドレスを指定するためのワードアドレスの先頭アドレスを入力します。[デバイス指定先頭アドレス] にアドレスモードを格納します。アドレスモードは、デバイスアドレスが内部デバイスか、外部（PLC）デバイスかを決めるモードのことです。[デバイス指定先頭アドレス] に続く 3 ワードには、デバイスコード、アドレスコードを格納します。デバイスコードとアドレスコードで指定されたワードアドレスが表示アドレスとなります。 例） [モニタワードアドレス]CN35 を間接指定する場合 [デバイス指定先頭アドレス]‥D100 [アドレスモード]‥外部（PLC）デバイス [デバイスコード]‥CN:0061  ※1 アドレスモード　0: 外部（PLC）デバイス　1: 内部デバイス 上記の場合では 0 を格納します。 ※2 デバイスコードはご使用の接続機器の「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご覧ください。アドレスモードで内部デバイスを指定した場合、デバイスコードは　LS エリア：0000 USR エリア：0001　です。 D100、D101、D102、D103 で指定されたアドレス CN35 のデータ「40」を表示します。

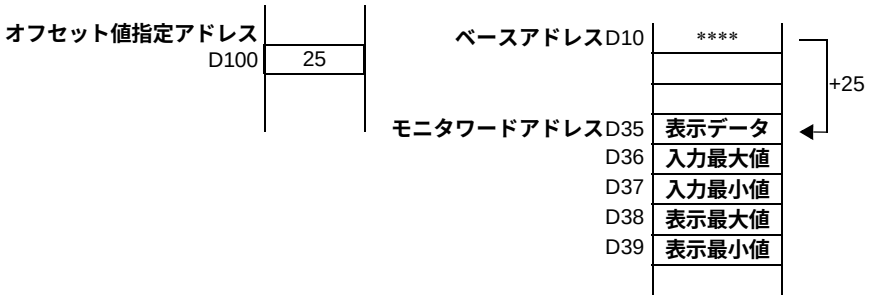
MEMO

- 間接指定したアドレスが範囲外であったり、存在しないデバイスであった場合、通信エラーとなります。エラー発生後は画面が動作しなくなりますのでご注意ください。エラー発生時は間接指定のデータをチェックし、正しいデータを接続機器に格納し直して画面切り替えを行い復旧してください。

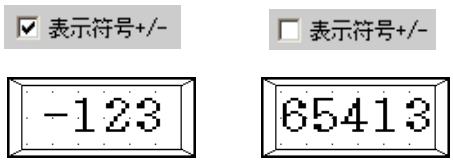
[基本設定] タブの詳細画面の [アドレスタイプ] で [アドレス] を選択し、[入力指定] または [表示指定] で [アドレス] を選択すると、入力範囲、表示範囲の最小値・最大値を格納するアドレスをモニタワードアドレスに続くアドレスから連続して自動的に割り付けることができます。

設定項目	設定内容
入力 / 表示範囲指定を行う	入力 / 表示範囲指定を行うと [モニタワードアドレス] のデータを入力範囲と表示範囲に応じて自動換算し、その結果を数値表示できます。（相対値表示） 例） 
データ形式	数値表示するデータの形式を選択します。 ビット長 / データ形式 16 ビット / Dec、Hex、Oct、Bin、BCD 32 ビット / Dec、Hex、Bin、BCD、Float
ビット長	表示するアドレスの有効ビット長を 1 ～ 16 で設定します。 [データ形式] が [16 ビット] の場合のみ設定できます。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
間接エリア指定		[入力指定]、[表示指定] がともに [アドレス] の場合、入力範囲の最小値・最大値と表示範囲の最小値・最大値が格納されるアドレスを間接的に指定する方法を [個別設定]、[表示アドレスに続くエリア] から選択します。 [入力指定]、[表示指定] のいずれか一方でも [定数] の場合は、[個別設定] 固定となります。 • **個別設定** [最小値]、[最大値] にそれぞれ個別に数値またはワードアドレスを指定します。 • **表示アドレスに続くエリア** [基本設定] タブで指定した [モニタワードアドレス] に続くアドレスから入力最大値 → 入力最小値 → 表示最大値 → 表示最小値の順番に連続して割り付けられます。 例） [間接エリア指定] で [表示アドレスに続くエリア] を選択した場合、表示される入力・表示範囲の最小値、最大値は以下のとおりになります。 [ベースアドレス] ‥D10、[オフセット値指定アドレス]‥D100 [モニタワードアドレス]‥D35 [入力指定]‥アドレス、[表示指定]‥アドレス 
入力範囲	**入力指定**	入力範囲の最小値・最大値を指定する方法を選択します。 • **定数** 最小値・最大値として固定の数値を書き込んで指定します。（直接指定） • **アドレス** 最小値・最大値が格納されているアドレスを指定します。（間接指定）
	入力符号	入力するデータの値に、負の数も扱えるようにするかどうかを設定します。 • **無し** 正の数のデータのみです。 • 2 **の補数** 負の数は 2 の補数で扱われます。 • MSB **符号** 負の数は MSB 符号で扱われます。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">表示範囲</td><td>表示指定</td><td>表示範囲の最小値・最大値を指定する方法を選択します。
• 定数
最小値・最大値として固定の数値を書き込んで指定します。（直接指定）
• アドレス
最小値・最大値が格納されているアドレスを指定します。（間接指定）</td></tr>
<tr><td>四捨五入</td><td>データを表示するときに端数を切り捨てるか四捨五入するかを指定します。</td></tr>
<tr><td>表示符号</td><td>負の数を表示するかどうかを指定します。
[データ形式] が [Dec] の場合に設定できます。
例）
「–123」というデータが書き込まれた場合
 

負の数を表示する　　負の数を表示しない</td></tr>
<tr><td>入力範囲／表示範囲</td><td>最小値・最大値</td><td>数値表示するデータの入力範囲および表示範囲を設定します。
[入力指定] や [表示指定] が [定数] の場合は最小値・最大値を入力します。
[アドレス] の場合は最小値・最大値が格納されるワードアドレスを指定します。
[データ形式]、[入力符号]、および [表示符号 +/–] により設定範囲が異なります。
<table>
<tr><th>ビット長</th><th>データ形式</th><th>入力符号</th><th>入力範囲</th><th>表示符号 +/–</th><th>表示範囲</th></tr>
<tr><td rowspan="18">16 ビット</td><td rowspan="6">Dec</td><td rowspan="2">無し</td><td rowspan="2">0 ～ 65535</td><td>無</td><td>0 ～ 65535</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–32768 ～ 32767</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 の補数</td><td rowspan="2">–32768 ～ 32767</td><td>無</td><td>0 ～ 65535</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–32768 ～ 32767</td></tr>
<tr><td rowspan="2">MSB 符号</td><td rowspan="2">–32767 ～ 32767</td><td>無</td><td>0 ～ 65535</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–32768 ～ 32767</td></tr>
<tr><td rowspan="3">Hex</td><td>無し</td><td>0 ～ 65535</td><td>－</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>2 の補数</td><td>–32768 ～ 32767</td><td>－</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>MSB 符号</td><td>–32767 ～ 32767</td><td>－</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">Oct</td><td>無し</td><td>0 ～ 65535</td><td>－</td><td>0 ～ 177777(o)</td></tr>
<tr><td>2 の補数</td><td>–32768 ～ 32767</td><td>－</td><td>0 ～ 177777(o)</td></tr>
<tr><td>MSB 符号</td><td>–32767 ～ 32767</td><td>－</td><td>0 ～ 177777(o)</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>－</td><td>0 ～ 9999</td><td>－</td><td>0 ～ 9999</td></tr>
<tr><td rowspan="3">Bin</td><td>無し</td><td>0 ～ 65535</td><td>－</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>2 の補数</td><td>–32768 ～ 32767</td><td>－</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>MSB 符号</td><td>–32767 ～ 32767</td><td>－</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

次のページに続きます。

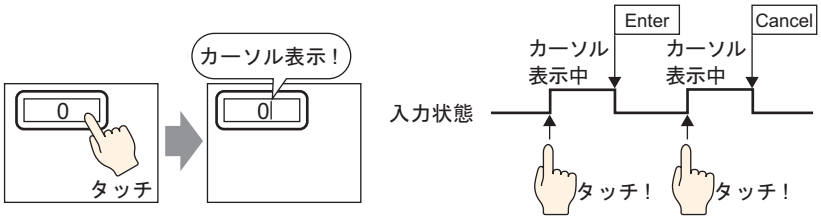
設定項目		設定内容
入力範囲／表示範囲	**最小値・最大値**	

ビット長	データ形式	入力符号	入力範囲	表示符号 +/–	表示範囲
32ビット	Dec	無し	0 ～ 4294967295	無	0 ～ 4294967295
				有	–2147483648 ～ 2147483647
		2 の補数	–2147483648 ～ 2147483647	無	0 ～ 4294967295
				有	–2147483648 ～ 2147483647
		MSB 符号	–2147483647 ～ 2147483647	無	0 ～ 4294967295
				有	–2147483648 ～ 2147483647
	Hex	無し	0 ～ 4294967295	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		2 の補数	–2147483648 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		MSB 符号	–2147483647 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
	BCD	―	0 ～ 99999999	―	0 ～ 99999999
	Bin	無し	0 ～ 4294967295	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		2 の補数	–2147483648 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
		MSB 符号	–2147483647 ～ 2147483647	―	0 ～ FFFFFFFF(h)
	Float	―	$-9.9e^{16}$ ～ $9.9e^{16}$	―	$-9.9e^{16}$ ～ $9.9e^{16}$

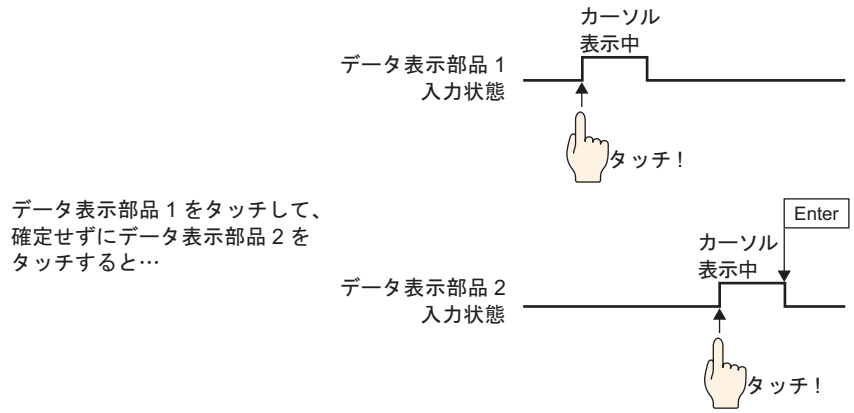
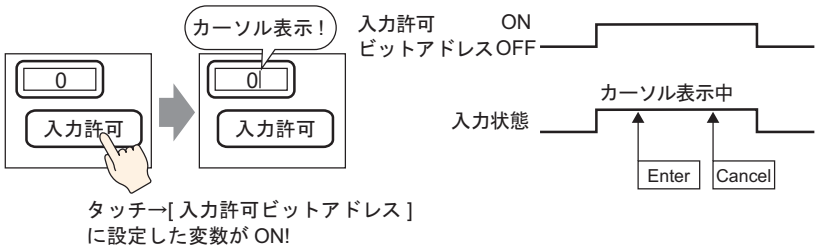
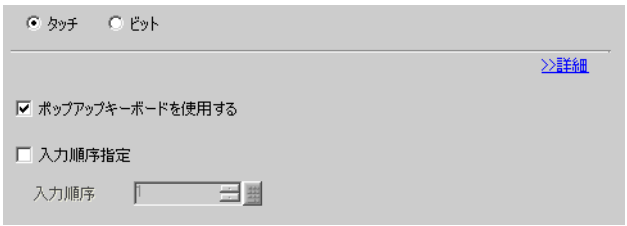
MEMO

- 入力範囲と表示範囲は入力された値をどのように自動換算して表示するかを決めるものです。入力範囲外の値が入力されてもそのまま自動換算され、表示範囲外の値で表示されます。

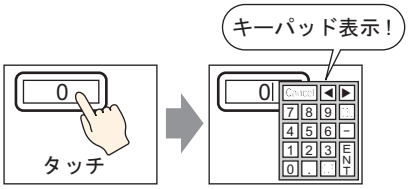
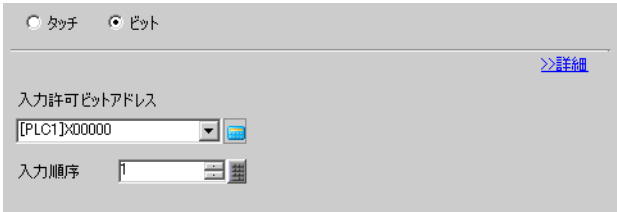
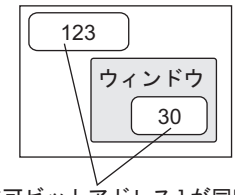
■ 入力許可 / 基本

設定項目	設定内容
入力許可の方法	データ表示部品を入力可能状態（カーソル表示状態）にする方法を選択します。 • **タッチ** データ表示部品をタッチすると入力可能状態になります。 

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
入力許可の方法	**MEMO** • あるデータ表示部品で入力中に他のデータ表示部品をタッチした場合、入力中のデータは入力前のデータに戻り、タッチされたデータ表示部品が入力可能状態になります。  • **ビット** 入力許可ビットアドレスの ON でデータ表示部品が入力可能状態になります。  **MEMO** • あるデータ表示部品で入力中に [入力許可ビットアドレス] が OFF した場合は、入力可能状態が解除され、入力前の状態に戻ります。
タッチ	

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
タッチ	ポップアップキーボードを使用する	データ表示部品をタッチしたときにポップアップキーボードを表示するかどうかを設定します。  **MEMO** • データ表示部品をウィンドウ画面に配置する場合はポップアップキーボードを使用できません。
	入力順序指定	複数のデータ表示部品に連続して入力する場合、入力可能状態になる順番を設定します。 ☞「14.13 **データ入力順序のしくみ**」（14-104 **ページ**）
	入力順序	入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。
ビット		
	入力許可ビットアドレス	ここで設定したビットアドレスが ON になったときにデータ表示部品が入力可能状態になります。
	入力順序	複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合（[入力許可ビットアドレス] が同じデータ表示部品が複数存在した場合、または異なる [入力許可ビットアドレス] が複数同時に ON した場合）に入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。 **MEMO** • 複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合は、設定した [入力順序] に従ってそれぞれのデータ表示部品が入力可能状態になります。[入力順序] が同じ場合はデータ表示部品を配置した順序で入力可能状態になります。 • ベース画面とウィンドウ画面にそれぞれ配置したデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合、入力可能な状態になる優先順位はベース画面、ウィンドウ画面の順となります。ベース画面とウィンドウ画面にデータ表示部品を配置する場合は、必ず異なる [入力許可ビットアドレス] を設定してください。  [入力許可ビットアドレス] が同時に ON

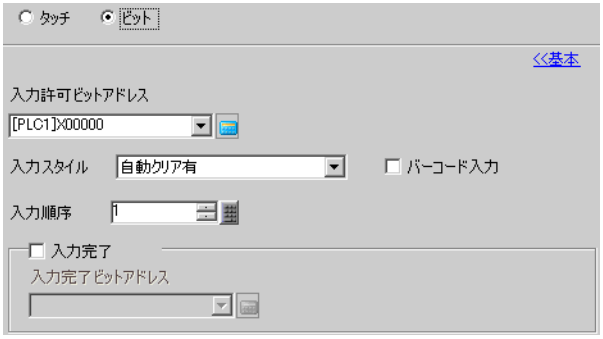
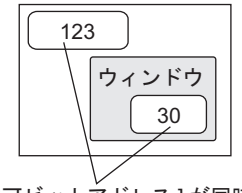
■ 入力許可 / 詳細

設定項目		設定内容
タッチ	ポップアップキーボードを使用する	データ表示部品をタッチしたときにポップアップキーボードを表示するかどうかを設定します。 **MEMO** • データ表示部品をウィンドウ画面に配置する場合はポップアップキーボードを使用できません。
	キーボードタイプ	• **システムキーボード** GP-Pro EX であらかじめ用意されている標準のキーボードを使用します。通常はこちらを使用します。 • **ユーザーキーボード** キーボード部品を利用して自作したキーボードを使用します。用途に応じてカスタマイズしたキーボードで入力したい場合に使用します。 ☞「16.4.2 **設定手順 ■ 編集したキーボードをポップアップで表示したい**」(16-15 **ページ**)

次のページに続きます。

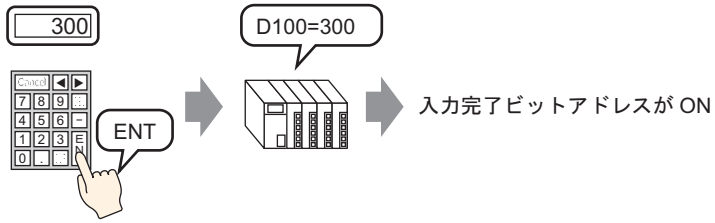
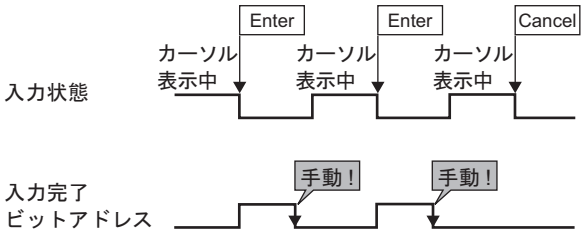
設定項目			設定内容
タッチ	システムキーボード		GP-Pro EX であらかじめ用意されている標準のキーボードが表示されます。
	ユーザーキーボード	キーボード番号	別途作成したキーボードの番号を設定します。
	配置位置指定		ポップアップキーボードを表示する位置を指定するかどうかを選択します。[する] を選択した場合は、データ表示部品配置後にポップアップキーボード表示エリアを選択して移動できます。 **MEMO** • データ表示部品を他のオブジェクトとグループ化した状態では、ポップアップキーボード表示エリアを選択、移動することはできません。
	入力順序指定		複数のデータ表示部品に連続して入力する場合、入力可能状態になる順番を設定します。 ☞「14.13 **データ入力順序のしくみ**」（14-104 **ページ**）
		入力順序	入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。
		グループ番号	連続して入力するデータ表示部品をグループ分けします。同じグループに登録されたデータ表示部品の入力順序に従ってカーソルが移動し、入力可能状態になります。グループ番号は 1 ～ 10 で設定します。 ☞「14.13.2 **グループ分けして入力順序を設定する**」（14-105 **ページ**）
	インターロック		[インターロックアドレス] のビットが [タッチ有効条件] で指定した状態の場合のみ入力が許可される機能です。インターロック機能を使用するかどうかを設定します。 ☞「14.7 **誤操作を防止したい（インターロック）**」（14-26 **ページ**）
	インターロックアドレス		入力を許可するタッチの有効条件となるビットアドレスを指定します。このアドレスの状態によりタッチが有効（無効）になります。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>タッチ</td><td>タッチ有効条件</td><td>入力を許可するタッチが有効となる条件を選択します。
<table>
<tr><th>タッチ有効条件</th><th>インターロック
アドレスの状態</th><th>タッチの有効／無効</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ビット ON 時</td><td>ON</td><td>タッチ有効</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>タッチ無効</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ビット OFF 時</td><td>ON</td><td>タッチ無効</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>タッチ有効</td></tr>
</table>
MEMO
• 入力中にインターロックの [タッチ有効条件] が無効に切り替わった場合、入力中のデータ表示部品は、引き続き入力可能な状態です。入力を終了するまではインターロック機能は作動しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ビット</td><td></td><td> 
</td></tr>
<tr><td>入力許可
ビットアドレス</td><td>ここで設定したビットアドレスが ON になったときにデータ表示部品が入力可能状態になります。</td></tr>
<tr><td>入力順序</td><td>複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合（[入力許可ビットアドレス] が同じデータ表示部品が複数存在した場合、または異なる [入力許可ビットアドレス] が複数同時に ON した場合）に入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。
MEMO
• 複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合は、設定した [入力順序] に従ってそれぞれのデータ表示部品が入力可能状態になります。[入力順序] が同じ場合はデータ表示部品を配置した順序で入力可能状態になります。
• ベース画面とウィンドウ画面にそれぞれ配置したデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合、入力可能な状態になる優先順位はベース画面、ウィンドウ画面の順となります。ベース画面とウィンドウ画面にデータ表示部品を配置する場合は、必ず異なる [入力許可ビットアドレス] を設定してください。


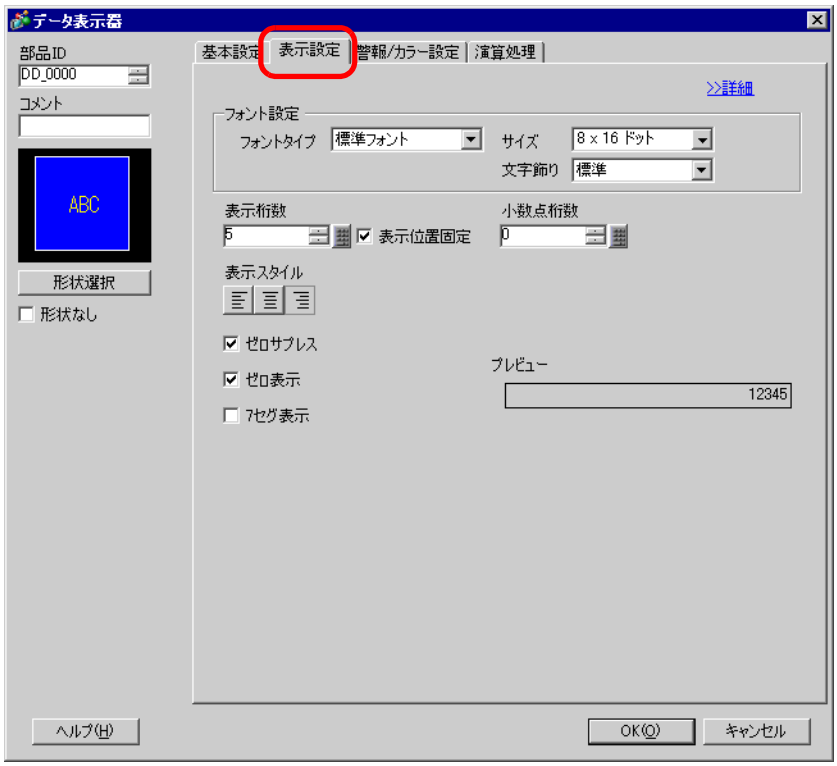
[入力許可ビットアドレス] が同時に ON</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
入力スタイル	• **自動クリア無し** 既に入っている数値に続いて値が入力されます。値をクリアしたい場合はキーボードから [CLR] を入力します。 • **自動クリア有り** 第一文字目（ただし、カーソル移動、[ENT]、[DEL]、[BS] のキーは除く）を入力すると既に入っている数値をクリアします。 • **入力桁チェック** バーコード入力の際、自動クリアを行いさらに入力された桁に対して [表示桁数] と一致しているかをチェックします。一致していない場合はワードアドレスへの書き込みを行いません。
バーコード入力	バーコードリーダからの入力を許可する設定です。 ☞「8.2.2 **設定手順**」（8-5 **ページ**）
入力完了	入力が完了したことを検出、通知する設定を行います。 
入力完了 ビットアドレス	入力が完了したときに ON するビットアドレスを設定します。  **MEMO** • 入力完了時にこのビットを OFF に戻す処理を行ってください。

■ 表示設定 / 基本

表示する数値表示部品のフォントや装飾を設定します。

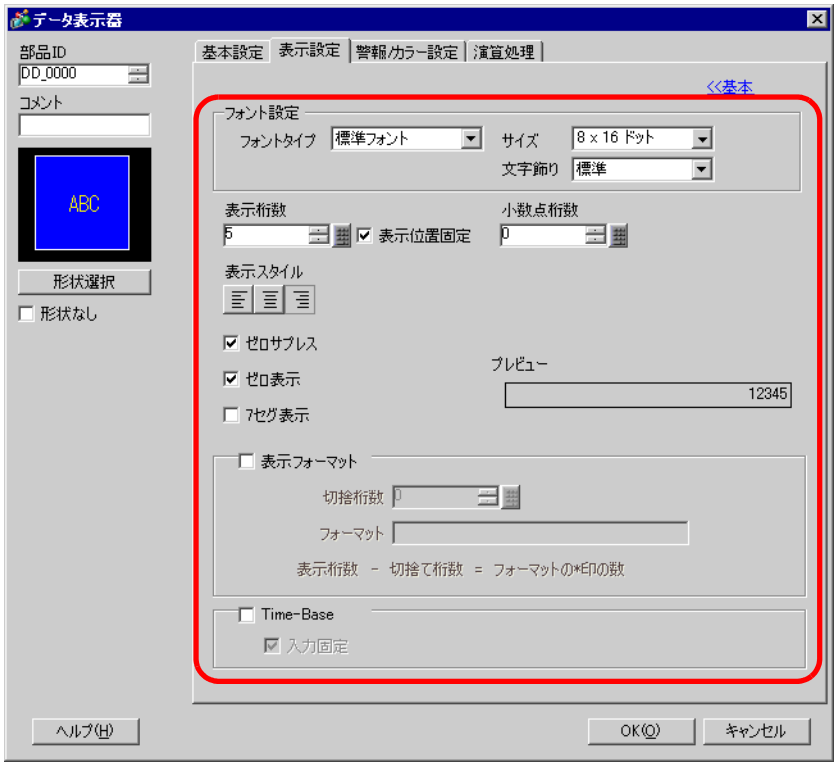


設定項目		設定内容
フォント設定		表示する数値のフォント設定を行います。
	フォントタイプ	表示する数値のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	サイズ	表示する数値のフォントのサイズを選択します。 **標準フォント**：(8 ～ 64) × (8 ～ 128) **標準フォント（固定サイズ）**：[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] **ストロークフォント**：6 ～ 127
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント**：[標準]、[太字]、[影付き] から選択 **標準フォント（固定サイズ）**：[標準]、[影付き] から選択 **ストロークフォント**：[標準]、[太字]、[中抜き] から選択 **MEMO** • [7 セグ表示] を指定している場合は [文字飾り] は設定できません。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>表示桁数
小数点桁数</td><td>[表示桁数] で数値表示部品に表示する桁数を設定します。小数点より下の桁数も含めて指定します。ただし小数点は表示桁数に含みません。
[小数点桁数] は表示する小数点より下の桁数を設定します。[データ形式] が [Dec]、[BCD] または [Float] の場合のみ設定します。
例）
表示桁数を「5」、小数点桁数を「2」とした場合、以下のように表示されます。
123.45
各桁数の設定範囲は [データ形式] によって異なります。
<table>
<tr><th rowspan="2">データ長</th><th rowspan="2">データ形式</th><th>表示桁数</th><th>小数点桁数</th></tr>
<tr><th colspan="2">設定範囲</th></tr>
<tr><td rowspan="5">16 ビット</td><td>Dec</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>1 ～ 11</td><td>—</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Oct</td><td>1 ～ 11</td><td>—</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>1 ～ 16</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="5">32 ビット</td><td>Dec</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>1 ～ 11</td><td>—</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>1 ～ 32</td><td>—</td></tr>
<tr><td>Float</td><td>1 ～ 17</td><td>0 ～ 16</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>表示位置固定</td><td>数値の表示位置を部品中央に固定するかどうかを設定します。</td></tr>
<tr><td>表示スタイル</td><td>数値表示エリア内の数値の位置を [右詰め]、[左詰め]、[中央揃え] から選択します。</td></tr>
<tr><td>ゼロサプレス</td><td>表示桁数を揃えるための「0」（ゼロ）を表示するかどうかを設定します。
例）表示桁数が 4 の場合
☑ ゼロサプレス　25　　☐ ゼロサプレス　0025
不要な「0」は表示しない　　表示桁数に足りない分だけ「0」を補って表示</td></tr>
<tr><td>ゼロ表示</td><td>表示データがゼロの場合「0」を表示するための設定です。</td></tr>
<tr><td>7 セグ表示</td><td>表示するデータを 7 セグメントで表示する設定を行います。
MEMO
• [表示設定] タブ [詳細] 画面の [表示フォーマット] を指定している場合は設定できません。</td></tr>
<tr><td>プレビュー</td><td>設定に応じてデータの表示イメージを表示します。</td></tr>
</table>

■ 表示設定 / 詳細

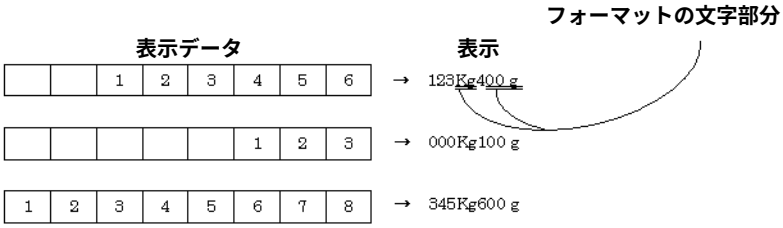


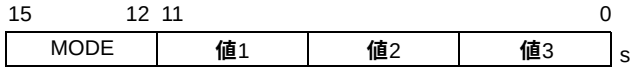
設定項目		設定内容
フォント設定		表示する数値のフォント設定を行います。
	フォントタイプ	表示する数値のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	サイズ	表示する数値のフォントのサイズを選択します。 **標準フォント：**（8 ～ 64）×（8 ～ 128） **標準フォント（固定サイズ）：**[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] **ストロークフォント：**6 ～ 127
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 **標準フォント（固定サイズ）：**[標準]、[影付き] **ストロークフォント：**[標準]、[太字]、[中抜き] から選択 **MEMO** • [7 セグ表示] を指定している場合は [文字飾り] は設定できません。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>表示桁数
小数点桁数</td><td>[表示桁数] で数値表示部品に表示する桁数を設定します。小数点より下の桁数も含めて指定します。ただし小数点は表示桁数に含みません。
[小数点桁数] は表示する小数点より下の桁数を設定します。[データ形式] が [Dec]、[BCD] または [Float] の場合のみ設定します。
例）
表示桁数を「5」、小数点桁数を「2」とした場合、以下のように表示されます。
123.45
各桁数の設定範囲は [データ形式] によって異なります。
<table>
<tr><th rowspan="2">データ長</th><th rowspan="2">データ形式</th><th>表示桁数</th><th>小数点桁数</th></tr>
<tr><th colspan="2">設定範囲</th></tr>
<tr><td rowspan="5">16 ビット</td><td>Dec</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>1 ～ 11</td><td>—</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Oct</td><td>1 ～ 11</td><td>—</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>1 ～ 16</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="5">32 ビット</td><td>Dec</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>1 ～ 11</td><td>—</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>1 ～ 11</td><td>0 ～ 10</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>1 ～ 32</td><td>—</td></tr>
<tr><td>Float</td><td>1 ～ 17</td><td>0 ～ 16</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>表示位置固定</td><td>数値の表示位置を部品中央に固定するかどうかを設定します。</td></tr>
<tr><td>表示スタイル</td><td>数値表示エリア内の数値の位置を [右詰め]、[左詰め]、[中央揃え] から選択します。</td></tr>
<tr><td>ゼロサプレス</td><td>表示桁数を揃えるための「0」（ゼロ）を表示するかどうかを設定します。
例）表示桁数が 4 の場合
☑ ゼロサプレス　25　　☑ ゼロサプレス　0025
不要な「0」は表示しない　　表示桁数に足りない分だけ「0」を補って表示</td></tr>
<tr><td>ゼロ表示</td><td>表示データがゼロの場合「0」を表示するための設定です。</td></tr>
<tr><td>7 セグ表示</td><td>表示するデータを 7 セグメントで表示する設定を行います。
MEMO
• [表示設定] タブ [詳細] 画面の [表示フォーマット] を指定している場合は設定できません。
• [サイズ] で [固定サイズ] を設定している場合は設定できません。</td></tr>
<tr><td>プレビュー</td><td>設定に応じてデータの表示イメージを表示します。</td></tr>
<tr><td>表示フォーマット</td><td>表示フォーマットを使用するかどうかを設定します。
MEMO
• [基本設定] タブで [入力許可] を指定している場合は設定できません。
• [基本設定] タブの [データ形式] が [Bin] の場合は設定できません。</td></tr>
<tr><td>切捨桁数</td><td>数値データをどの桁で切り捨てるのか 0 ～ 10 で設定します。[基本設定] タブの [データ形式] が [Dec]、[BCD] の場合のみ設定できます。切り捨てる桁がない場合は、「0」に設定します。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">表示フォーマット</td><td>フォーマット</td><td>表示するフォーマットを設定します。データが表示される部分を「*（半角）」で入力し、フォーマットの文字部分と合わせて半角 80 字以内で設定します。「*」の部分に数値が下桁位から代入されます。
フォーマットは [表示桁数] − [切捨桁数] ＝「*」の数となるように設定してください。
例）
[表示桁数]‥6　[切捨桁数]‥2　[表示スタイル]‥右詰め
[ゼロサプレス]‥無し　[フォーマット]‥***Kg *00g
 

下位桁から「*」部分にデータが入ります。ただし、[切捨桁数] が「2」なので下位から 3 桁目のデータから入ります。</td></tr>
<tr><td>表示桁数 − 切捨て桁数 ＝ フォーマットの＊印の数</td><td>表示フォーマットの「*」の数を割り出す計算方法を表示します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">Time-Base</td><td>タイムベース機能を使用するかどうかを設定します。
次の接続機器を選択している場合のみ動作します。
• Siemens AG : SIMATIC S7 3964(R)/RK512
• Siemens AG : SIMATIC S7 MPI 直結
• Siemens AG : SIMATIC S7 イーサネット
• PROFIBUS International : PROFIBUS DP スレーブ
[Time-Base] にチェックを入れると、次のような形式でデータ表示をします。
ワードアドレス
 

指定したワードアドレスの上位 4 ビットでフォーマットとなる小数点位置を設定し、以降 4 ビットずつの区切りで 3 桁の値を表示します。
値（小数点やスペース、0 を含む）4 桁と +「s」（5 桁目）で表示されます。
0h ～ 9h 以外の値が入った場合は以下のように表示されます。
<table><tr><th>Mode</th><th>表示</th></tr><tr><td>0h</td><td>0.01s</td></tr><tr><td>1h</td><td>0.1s</td></tr><tr><td>2h</td><td>1s</td></tr><tr><td>3h</td><td>10s</td></tr><tr><td>0 ～ 3h 以外</td><td>10s</td></tr></table><table><tr><th></th><th></th></tr><tr><td>0Ah</td><td>スペース</td></tr><tr><td>0Bh</td><td>:</td></tr><tr><td>0Ch</td><td>E</td></tr><tr><td>0Dh</td><td>.</td></tr><tr><td>0Eh</td><td>+</td></tr><tr><td>0Fh</td><td>-</td></tr></table>例）値 1=1、値 2=2、値 3=3 の場合
1 2 . 3 s　Mode：1
1 2 3 s　Mode：2</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>Time-Base</td><td>入力固定</td><td>

数値入力時に小数点を固定するかどうかを設定します。

- **有効の場合**

小数点位置が固定されます。小数点を入力するとカーソルが小数点以下または以上へ交互に移動します。「←」、「→」キーを押しても移動できます。

例）

「2」を入力　「.」を入力　「3」を入力　「2」を入力　「.」を入力

1.23s → 2.23s → 2.23s → 2.33s → 2.32s → 2.32s

↑ **カーソル**

<table>
<tr><th rowspan="2">入力値</th><th colspan="4">データ表示器に表示される値</th></tr>
<tr><th>Mode0
(0.01s)</th><th>Mode1
(0.1s)</th><th>Mode2
(1s)※1</th><th>Mode3
(10s)※1</th></tr>
<tr><td>0</td><td>0.00s</td><td>_0.0s</td><td>__0_s</td><td>___0s</td></tr>
<tr><td>2</td><td>2.00s</td><td>_2.0s</td><td>__2_s</td><td>__20s</td></tr>
<tr><td>1.2</td><td>1.20s</td><td>_1.2s</td><td>入力不可</td><td>入力不可</td></tr>
<tr><td>1.23</td><td>1.23s</td><td>_1.3s※2</td><td>入力不可</td><td>入力不可</td></tr>
<tr><td>12</td><td>2.00s※3</td><td>12.0s</td><td>_12_s</td><td>_120s</td></tr>
<tr><td>12.3</td><td>2.30s※4</td><td>12.3s</td><td>入力不可</td><td>入力不可</td></tr>
<tr><td>123</td><td>3.00s※5</td><td>23.0s※4</td><td>123_s</td><td>1230s</td></tr>
</table>

※1　Mode2、3 では小数点は入力できません。

※2　小数点桁数が 1 桁のため、最初に入力した小数点以下の数値「2」は消去されます。

※3　整数桁数が 1 桁のため、最初に入力した「1」は消去されます。

※4　小数点を入力するまで、カーソルが小数点以下へ移動しないため、最初に入力した「1」は消去されます。

※5　小数点を入力するまで、カーソルが小数点以下へ移動しないため、入力した「1」「2」は消去されます。

- **無効の場合**

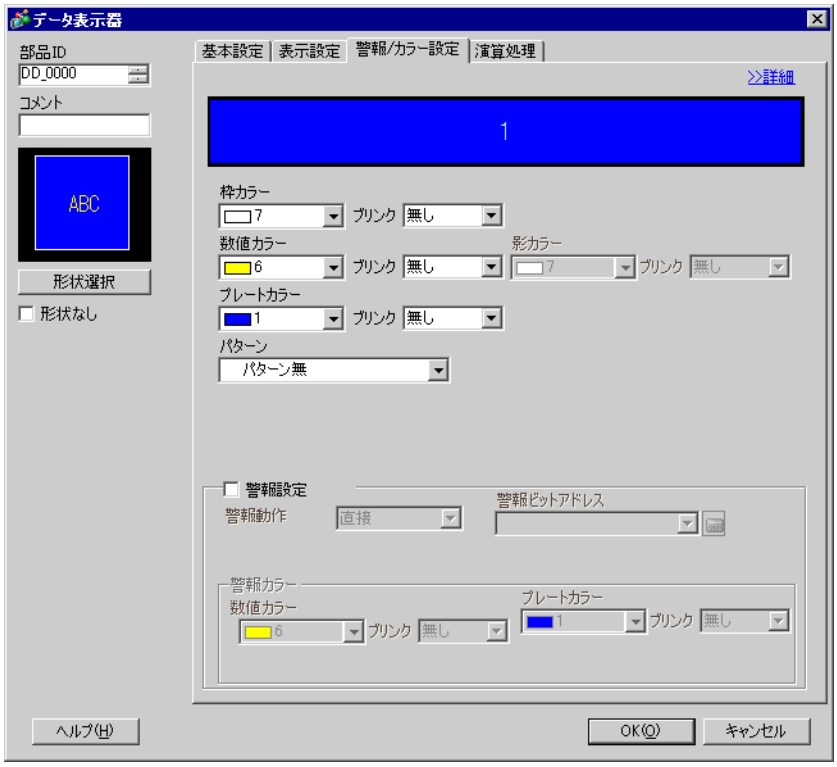
小数点の位置に関係なく、小数点を含む 4 桁の数値で入力します。入力した値は、より精度の高いモードを使って表示されます。
データ表示器を入力状態にすると、初期状態ではカーソル位置は右端になります。

<table>
<tr><th>入力値</th><th>表示される値</th><th>Mode</th></tr>
<tr><td>0</td><td>0.00s</td><td>0</td></tr>
<tr><td>0.0</td><td>0.00s</td><td>0</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1.00s</td><td>0</td></tr>
<tr><td>1.2</td><td>1.20s</td><td>0</td></tr>
<tr><td>1.23</td><td>1.23s</td><td>0</td></tr>
<tr><td>12</td><td>12.0s</td><td>1</td></tr>
<tr><td>12.3</td><td>12.3s</td><td>1</td></tr>
<tr><td>123</td><td>123_s</td><td>2</td></tr>
<tr><td>1230</td><td>1230s</td><td>3</td></tr>
<tr><td>1234</td><td>入力不可</td><td>—</td></tr>
</table>

</td></tr>
</table>

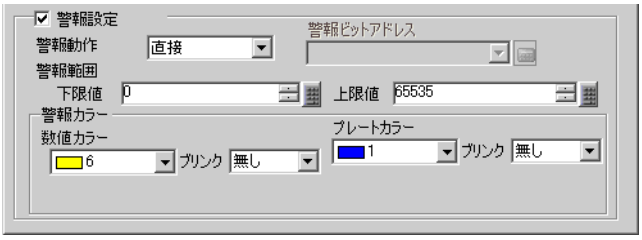
■ 警報 / カラー設定 / 基本

数値表示部品の色や数値データの警報設定を行います。



設定項目	設定内容
枠カラー	数値表示部品の枠の色を設定します。
数値カラー	数値表示部品の数字の色を設定します。
影カラー	数値表示部品の数値の背景の色を設定します。 **MEMO** • [表示設定] タブの [フォント設定]、[文字飾り] で [影付き] が選択されている場合のみ設定できます。
プレートカラー	数値表示部品の背景の色を設定します。
パターン	数値表示部品の背景柄を設定します。
パターンカラー	数値表示部品の背景柄の色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[枠カラー]、[数値カラー]、[影カラー]、[プレートカラー]、[パターンカラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「9.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」(9-34 **ページ**)

次のページに続きます。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td colspan="2">**間接エリア指定**</td><td>[警報設定] の [警報動作] が [アドレス] の場合、警報の上限値、下限値を格納するワードアドレスを指定する方法を選択します。
• **表示アドレスに続くエリア**
[基本設定] タブで指定した [モニタワードアドレス] に続くアドレスから下限値 → 上限値の順番に連続して割り付けられます。
<table><tr><th>モニタワードアドレス</th><th>表示データ</th></tr><tr><td>+1</td><td>下限値</td></tr><tr><td>+2</td><td>上限値</td></tr><tr><td></td><td>:</td></tr></table>例）
[モニタワードアドレス] が「D100」の場合
下限値は「D101」、上限値は「D102」となります。
• **個別設定**
[下限値]、[上限値] にそれぞれ個別にワードアドレスを指定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">**警報設定**</td><td>設定範囲を超えたら色を替えて表示することができます。[警報設定] を使用するかどうかを指定します。
 

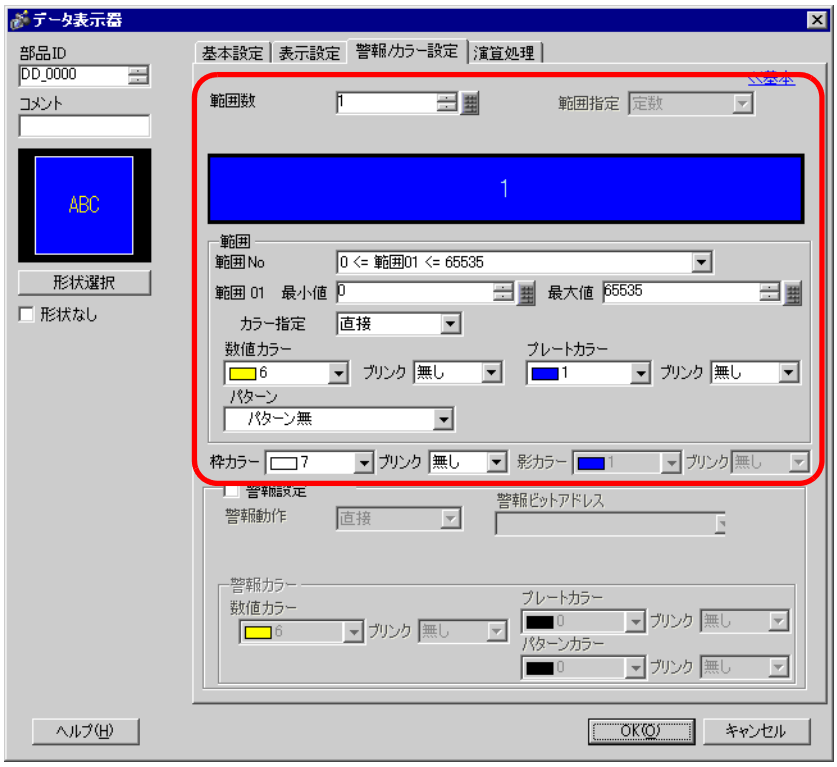
MEMO
• 警報設定は範囲数が 1 の場合のみ設定できます。範囲数が 1 の場合は基本画面で設定した内容がそのまま詳細画面に引き継がれて表示されます。
• [基本設定] タブで [入力許可] を指定している場合、警報範囲を越えた値は入力できません。</td></tr>
<tr><td></td><td>**警報動作**</td><td>警報動作を選択します。
• **直接**
警報範囲の上限値、下限値として固定の数値を書き込んで指定します。
• **アドレス**
上限値・下限値が格納されているアドレスを指定します。
• **色替え**
[警報ビットアドレス] が ON になると色を替えて警報表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>**警報ビットアドレス**</td><td>[警報動作] が [色替え] の場合、色替えのトリガとなるビットアドレスを入力します。このビットが ON になると色替えが行われます。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="6">警報設定</td><td colspan="2">警報値範囲
上限値・下限値</td><td>[警報動作] が [直接] の場合、警報範囲の上限値、下限値を設定します。
[警報動作] が [アドレス] で [個別設定] の場合は上限値・下限値が格納されるワードアドレスを設定します。
[データ形式] と [符号 +/–] により設定範囲が異なります。
<table>
<tr><th>データ形式</th><th>データ長</th><th>符号 +/–</th><th>警報値設定</th></tr>
<tr><td rowspan="4">Dec</td><td rowspan="2">16 ビット</td><td>無</td><td>0 ～ 65535</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–32768 ～ 32767</td></tr>
<tr><td rowspan="2">32 ビット</td><td>無</td><td>0 ～ 4294967295</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–2147483648 ～ 2147483647</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Bin</td><td>16 ビット</td><td colspan="2" rowspan="2">0000‥0000（16 ビット）～ 1111‥1111（16 ビット）</td></tr>
<tr><td>32 ビット</td></tr>
<tr><td rowspan="2">BCD</td><td>16 ビット</td><td colspan="2">0 ～ 9999</td></tr>
<tr><td>32 ビット</td><td colspan="2">0 ～ 99999999</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Hex</td><td>16 ビット</td><td colspan="2">0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>32 ビット</td><td colspan="2">0 ～ FFFFFFFF(h)</td></tr>
<tr><td>Oct</td><td>16 ビットのみ</td><td colspan="2">0 ～ 177777(o)</td></tr>
<tr><td>Float</td><td>32 ビットのみ</td><td colspan="2">$-9.9e^{16}$ ～ $9.9e^{16}$</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td colspan="2">警報カラー</td><td>警報カラーの設定を行います。</td></tr>
<tr><td></td><td>数値カラー</td><td>警報表示時の数値表示部品の数値の色を 256 色より選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>プレートカラー</td><td>警報表示時の数値表示部品の背景色を 256 色より選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>パターンカラー</td><td>警報表示時の数値表示部品のパターン色を 256 色より選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>ブリンク</td><td>点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[数値カラー]、[プレートカラー]、[パターンカラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。
MEMO
• 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。
☞「9.5.1 カラーを設定する ■ 対応色数一覧」（9-34 ページ）</td></tr>
</table>

■ 警報 / カラー設定 / 詳細

数値データの範囲によって色を変えて表示します。



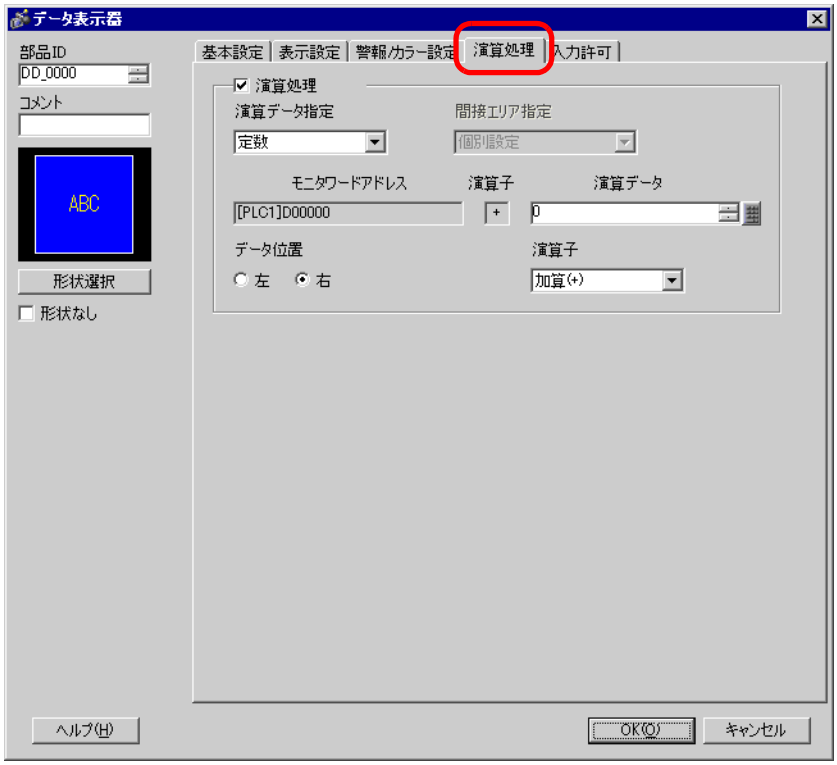
設定項目	設定内容
範囲数	数値表示を色分けする範囲数を 1 ～ 16 で設定します。
範囲指定	[範囲数] が「2」以上の場合に各範囲の最小値・最大値を指定する方法を選択します。[範囲数] が「1」の場合は [定数] 固定です。 • **定数** 最小値・最大値として固定の数値を書き込んで指定します。（直接指定） • **アドレス** 最小値・最大値が格納されているアドレスを指定します。（間接指定）
間接エリア指定	[範囲指定] が [アドレス] の場合、数値範囲の最小値、最大値が格納されるアドレスを指定する方法を選択します。 • **表示アドレスに続くエリア** [基本設定] タブで指定した [モニタワードアドレス] に続くアドレスから最小値 → 最大値の順番に連続して割り付けられます。 **モニタワードアドレス** / **表示データ** +1 / **最小値** +2 / **最大値** : 例） [モニタワードアドレス] が「D100」の場合最小値は「D101」、最大値は「D102」となります。 • **個別設定** [最小値]、[最大値] にそれぞれ個別にワードアドレスを指定します。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="9">範囲</td><td>範囲 No</td><td>[範囲数] で設定した 1 ～ 16 までの範囲のうち、最小値・最大値およびカラーを設定する範囲を選択します。[最小値]、[最大値] で設定した値も表示されます。
例）
最小値　≦　範囲 **　＜　最大値</td></tr>
<tr><td>最小値・最大値</td><td>[範囲 No] で選択した範囲の最小値・最大値を設定します。[範囲指定] が [定数] の場合、最小値・最大値を入力します。[アドレス] の場合は最小値・最大値が格納される任意のアドレスを指定します。[基本設定] タブの [データ形式] と符号の有無によって設定範囲が異なります。
<table>
<tr><th colspan="2">データ形式</th><th>符号 +/–</th><th>範囲</th></tr>
<tr><td rowspan="6">16 ビット</td><td rowspan="2">Dec</td><td>無</td><td>0 ～ 65535</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–32768 ～ 32767</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>—</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>Oct</td><td>—</td><td>0 ～ 177777(o)</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>—</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>—</td><td>0 ～ 9999</td></tr>
<tr><td rowspan="6">32 ビット</td><td rowspan="2">Dec</td><td>無</td><td>0 ～ 4294967295</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–2147483648 ～ 2147483647</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>—</td><td>0 ～ FFFFFFFF(h)</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>—</td><td>0 ～ FFFFFFFF(h)</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>—</td><td>0 ～ 99999999</td></tr>
<tr><td>Float</td><td>—</td><td>$-9.9e^{16}$ ～ $9.9e^{16}$</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>カラー指定</td><td>設定した範囲の色やパターンを指定する方法を選択します。[範囲数] が「2」以上の場合や [色積み] を設定している場合は、[直接] 固定です。
• 直接
[範囲 No.] で選択した範囲の [表示カラー]、[パターン]、[パターンカラー] を直接選択し個別に指定します。（直接指定）
• アドレス
カラーコードを格納するアドレスを指定します。（間接指定）</td></tr>
<tr><td>数値カラー</td><td>数値表示部品の数字の色を設定します。</td></tr>
<tr><td>プレートカラー</td><td>数値表示部品の背景の色を設定します。</td></tr>
<tr><td>パターン</td><td>数値表示部品の背景柄を設定します。</td></tr>
<tr><td>パターンカラー</td><td>数値表示部品の背景柄の色を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">枠カラー</td><td>数値表示部品の枠の色を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">影カラー</td><td>数値表示部品の文字飾りの影の色を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ブリンク</td><td>点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[数値カラー]、[プレートカラー]、[パターンカラー]、[枠カラー]、[影カラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。
MEMO
• 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。
☞「9.5.1 カラーを設定する ■ 対応色数一覧」（9-34 ページ）</td></tr>
</table>

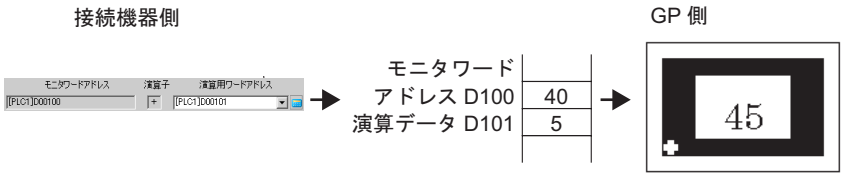
■ 演算処理

接続機器から読み出したデータに対して演算処理を行い、演算した結果を表示することができます。



設定項目		設定内容
演算処理		[モニタワードアドレス] に格納されたデータに対して演算を行い、その結果を表示するかどうかを設定します。 **MEMO** • 以下の場合は [演算処理] を設定できません。 ・[入力・表示範囲指定を行う] を指定している。 ・[警報設定] を指定している。
	演算データ指定	演算するデータを設定する方法を選択します。 • **定数** 演算するデータとして固定の数値を書き込んで指定します。（直接指定） • **アドレス** 演算するデータが格納されているアドレスを指定します。（間接指定）

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">演算処理</td><td>間接エリア指定</td><td>[演算データ指定] が [アドレス] の場合、演算データが格納されるアドレスを指定する方法を選択します。
• 表示アドレスに続くエリア
[基本設定] タブで指定した [モニタワードアドレス] に続くアドレスの順番に連続して割り付けられます。
例）
演算データ指定 [アドレス]、間接エリア指定 [表示アドレスに続くエリア]、演算子 [+] を選択した場合
 

• 個別設定
演算データのワードアドレスを個別に指定します。</td></tr>
<tr><td>モニタワードアドレス</td><td>[基本設定] タブで指定された（モニタワードアドレス）が表示されています。</td></tr>
<tr><td>演算データ</td><td>[ワードアドレス] のデータに対してもう一方のデータを設定します。
[演算データ指定] が [定数] の場合は演算データを入力します。[基本設定] タブの [データ形式] によって設定範囲が異なります。[アドレス] の場合は演算データが格納されるアドレスを指定します。
<table>
<tr><th colspan="2">データ形式</th><th>符号 +/–</th><th>範囲</th></tr>
<tr><td rowspan="6">16 ビット</td><td rowspan="2">Dec</td><td>無</td><td>0 ～ 65535</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–32768 ～ 32767</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>—</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>Oct</td><td>—</td><td>0 ～ 177777(o)</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>—</td><td>0 ～ FFFF(h)</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>—</td><td>0 ～ 9999</td></tr>
<tr><td rowspan="6">32 ビット</td><td rowspan="2">Dec</td><td>無</td><td>0 ～ 4294967295</td></tr>
<tr><td>有</td><td>–2147483648 ～ 2147483647</td></tr>
<tr><td>Hex</td><td>—</td><td>0 ～ FFFFFFFF(h)</td></tr>
<tr><td>Bin</td><td>—</td><td>0 ～ FFFFFFFF(h)</td></tr>
<tr><td>BCD</td><td>—</td><td>0 ～ 99999999</td></tr>
<tr><td>Float</td><td>—</td><td>$-9.9e^{16}$ ～ $9.9e^{16}$</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
演算処理	データ位置	演算データまたは演算用ワードアドレスの表示位置を [右]、[左] から選択します。 **右：モニタワードアドレスが左、演算データや演算用ワードアドレスが右** **左：演算データや演算用ワードアドレスが左、モニタワードアドレスが右**
	演算子	演算子を [加算（+）]、[減算（–）]、[乗算（*）]、[除算（/）]、[論理積（&）]、[論理和（｜）]、[排他的論理和（^）] から選択します。 **MEMO** • 演算するデータ形式が 32 ビット Float の場合、四則演算のみ可能です。

MEMO

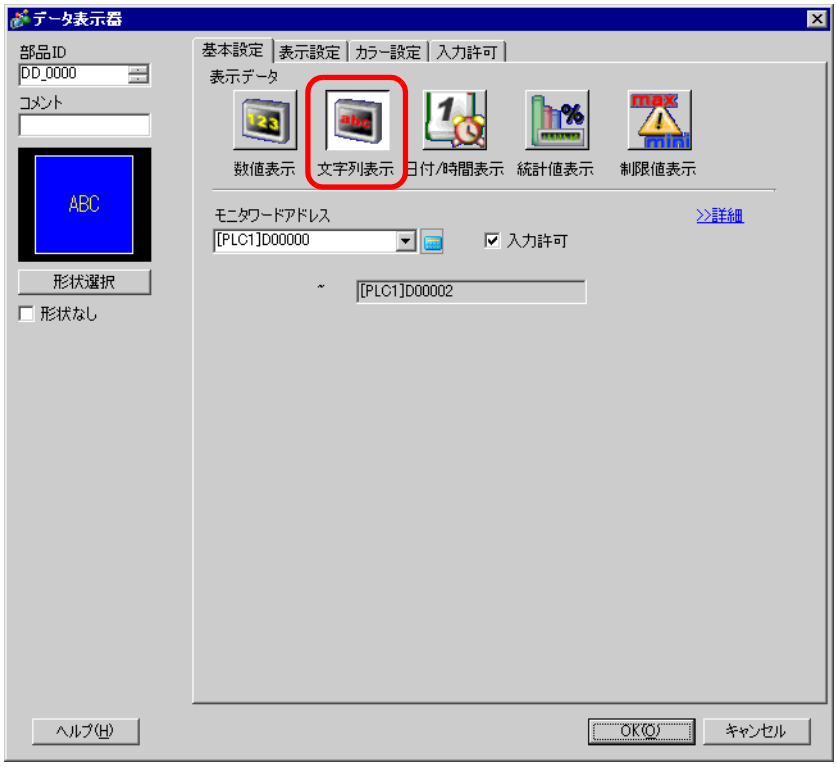
- 演算処理において桁あふれが生じた場合、あふれた分については無視されます。例えば [16 ビット Hex] の場合「FFFF(h) +1(h)」の演算結果は「0000(h)」となります。
- [除算 (/)] で余りが出た場合などは四捨五入のため誤差がでることがあります。
- ベースアドレス + オフセット値の演算結果は、データ長、データ形式の設定に関係なく、常に 16 ビット Bin で扱われます。
  もし演算結果が 16 ビット（最大値：65535）を超える場合、15 ビット目までを有効なビットとして扱い、16 ビット目以上は切り捨てられます。

14.11.2 文字列表示

■ 基本設定 / 基本

接続機器内の指定ワードアドレスに入っている文字列データ表示します。

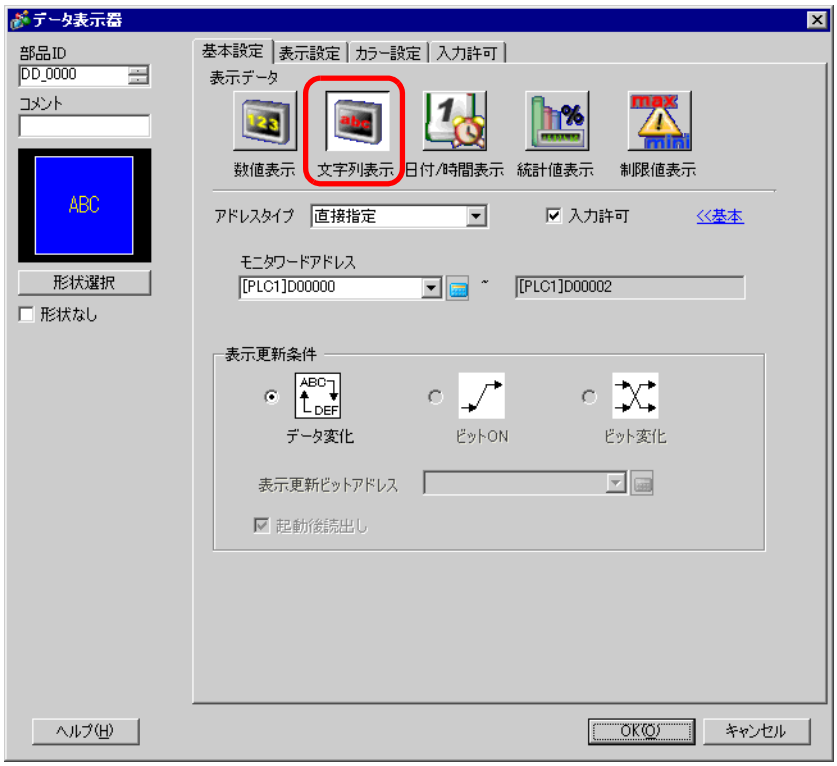
☞「14.3 文字列データを表示・入力したい」（14-8 ページ）



設定項目	設定内容
モニタワードアドレス	ここで設定したワードアドレスに格納されているデータをリアルタイムに文字列表示します。 **MEMO** • 文字コードの格納順（Low/High）は使用するデバイスによって異なります。
入力許可	文字列表示部品に対してキーボードやバーコードリーダからの入力を受け付ける設定を行います。
モニタワードアドレスの最後尾アドレスの表示	モニタワードアドレス＋使用ワードアドレス数分（表示文字数により変化します。）のアドレスを表示します。 例） [表示設定] タブの [表示文字数] が「5」、モニタワードアドレスを「D100」で設定した場合、再後尾アドレスは「D102」となります。

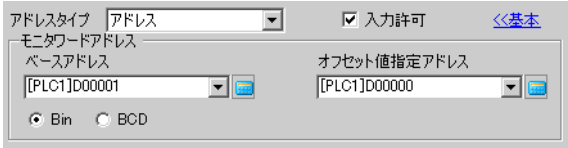
■ 基本設定 / 詳細

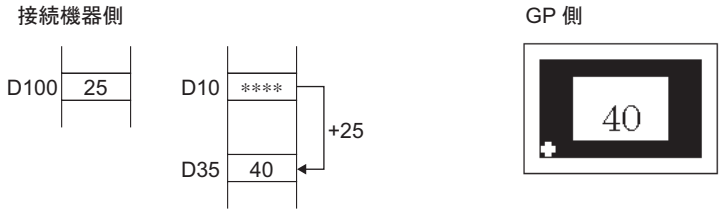
文字列表示するアドレスを間接的に指定したり、文字列データ表示更新条件を設定できます。



項目設定		設定内容
アドレスタイプ		表示するアドレス（モニタワードアドレス）を指定する方法を [直接指定]、[アドレス]、[デバイスタイプ＆アドレス] から選択します。
入力許可		キーボードやバーコード /2 次元コードリーダからの入力を受け付けるかどうかを設定します。ここにチェックを入れると、[入力許可] タブが表示されます。
モニタワードアドレス		ここで設定したワードアドレスに格納されているデータをリアルタイムに文字列表示します。モニタワードアドレスを間接的に指定するには [アドレスタイプ] で [アドレス]、[デバイスタイプ＆アドレス] を選択します。
	アドレス	[ベースアドレス] で指定したデバイスと同一デバイス内で間接指定します。

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">項目設定</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="5">モニタワードアドレス</td><td rowspan="3">アドレス</td><td>ベースアドレス</td><td> 

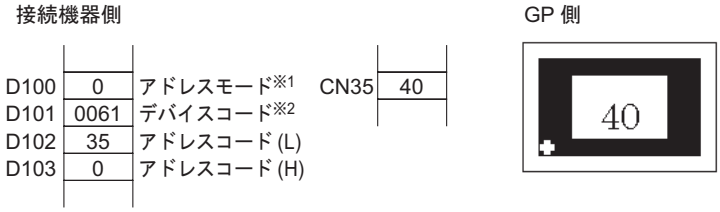
[ベースアドレス] は間接指定の基準となるアドレスです。
[オフセット値指定アドレス] には [ベースアドレス] からのオフセット値を格納しているアドレスを設定します。
例）[モニタワードアドレス]D35 を間接指定する場合
[ベースアドレス]‥D10　　[オフセット値指定アドレス]‥D100
[オフセット値指定アドレス] 内のデータが [ベースアドレス] からのオフセット値として扱われます。</td></tr>
<tr><td>オフセット値指定アドレス</td><td> 

[ベースアドレス]D10 から [オフセット指定値アドレス]D100 内のデータ分「25」が加算され、加算されたアドレス D35 のデータ「40」を表示します。
重　要
• **[ベースアドレス]+[オフセット値] が桁あふれする（16 ビットを超える）場合、正しいモニタワードアドレスを求めることができません。この場合モニタワードアドレスは不定になります。**</td></tr>
<tr><td>Bin, BCD</td><td>[オフセット値指定アドレス] に格納されるデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">デバイスタイプ＆アドレス</td><td>デバイスとアドレス両方を間接指定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>接続機器</td><td>[アドレスタイプ] が [デバイスタイプ & アドレス] の場合、どの接続機器のアドレスを間接指定するかを選択します。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">項目設定</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>モニタワードアドレス</td><td>デバイスタイプ＆アドレス</td><td>デバイス指定先頭アドレス</td><td>

[デバイス指定先頭アドレス] は表示アドレスを指定するためのワードアドレスの先頭アドレスを入力します。[デバイス指定先頭アドレス] にアドレスモードを格納します。アドレスモードは、デバイスアドレスが内部デバイスか、外部（PLC) デバイスかを決めるモードのことです。[デバイス指定先頭アドレス] に続く 3 ワードには、デバイスコード、アドレスコードを格納します。デバイスコードとアドレスコードで指定されたワードアドレスが表示アドレスとなります。
例）[モニタワードアドレス]CN35 を間接指定する場合
[デバイス指定先頭アドレス]‥D100
[アドレスモード]‥外部（PLC）デバイス
[デバイスコード]‥CN:0061



※1 アドレスモード　0: 外部（PLC）デバイス　1: 内部デバイス
上記の場合では 0 を格納します。
※2 デバイスコードはご使用の接続機器の「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご覧ください。アドレスモードで内部デバイスを指定した場合、デバイスコードは　LS エリア：0000
USR エリア：0001　です。

D100、D101、D102、D103 で指定されたアドレス CN35 のデータ「40」を表示します。

MEMO

- 間接指定したアドレスが範囲外であったり、存在しないデバイスであった場合、通信エラーとなります。エラー発生後は画面が動作しなくなりますのでご注意ください。エラー発生時は間接指定のデータをチェックし、正しいデータを接続機器に格納し直して画面切り替えを行い復旧してください。

</td></tr>
<tr><td colspan="3">表示更新条件</td><td>

表示を更新する条件（タイミング）を指定します。詳細画面でのみ設定できます。

- **データ変化**
[基本設定] タブの [モニタワードアドレス] に格納されているデータに変化があったときに表示を更新します。
- **ビット** ON
[基本設定] タブの [モニタワードアドレス] に格納されているビットが ON したときに表示を更新します。
- **ビット変化**
[基本設定] タブの [モニタワードアドレス] に格納されているビットの ON/OFF が切り替わるたびに表示を更新します。

</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">表示更新
ビットアドレス</td><td>[表示更新条件] が [ビット ON] または [ビット変化] の場合に表示更新のトリガとなるビットアドレスを設定します。</td></tr>
</table>

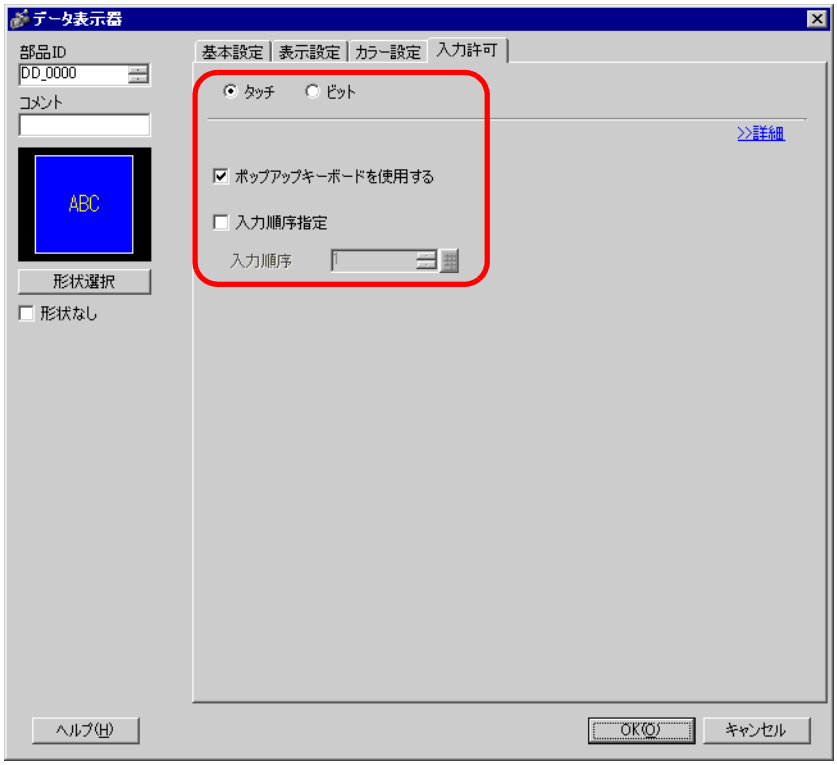
次のページに続きます。

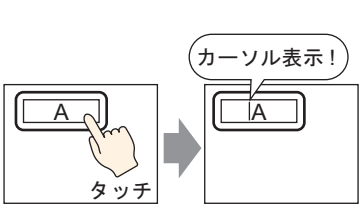
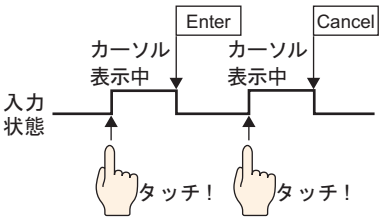
項目設定		設定内容
	起動後読出し	文字データが多い場合や１画面中の文字列表示部品が多い場合は、それぞれの文字列表示部品に [起動後読出し] を設定すると、[モニタアドレス] のデータを常時読み出さない分だけ、他の部品の表示スピードはアップしますが、文字列表示部品自体の表示スピードはダウンします。

MEMO

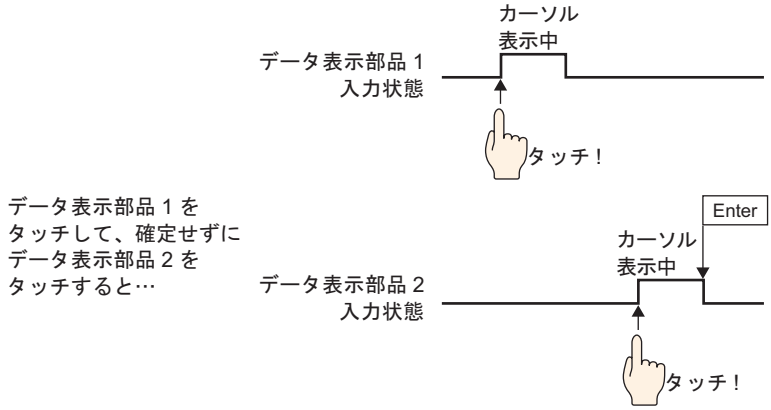
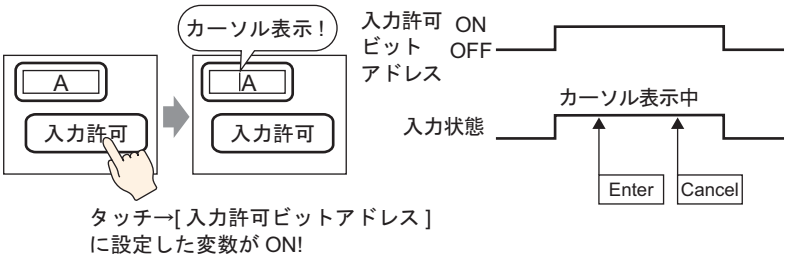
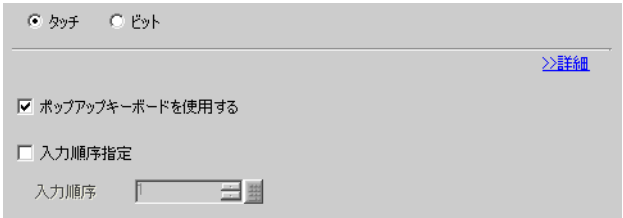
- モニタアドレス内のデータが完全に変化した後で [表示更新ビットアドレス] を変化させて文字列を表示するようにしてください。切り替えの順番が逆になった場合、文字列が正しく表示されません。
- 接続機器内の文字列データが変化した直後に [表示更新ビットアドレス] が切り替わると、文字列が正しく表示されないことがあります。このような場合には、切り替えのタイミングにウェイトを持たせて調整してください。
  なお、最適なウェイト時間は、配置部品数、スキャンタイム、伝送速度、文字数などによって変化します。

■ 入力許可 / 基本

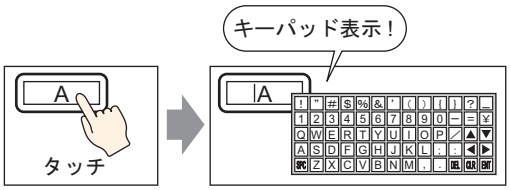
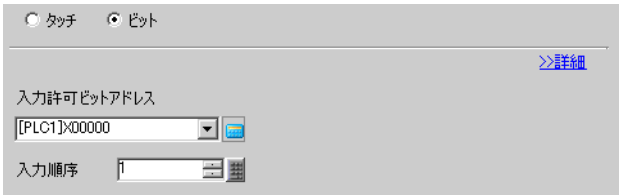
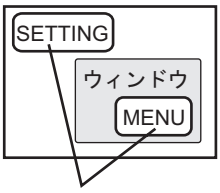


設定項目	設定内容
入力許可の方法	データ表示部品を入力可能状態（カーソル表示状態）にする方法を選択します。 • **タッチ** データ表示部品をタッチすると入力可能状態になります。  

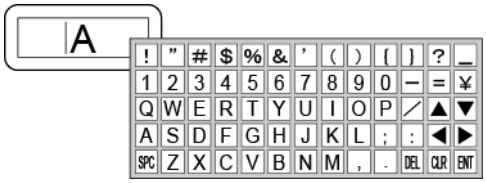
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
入力許可の方法	**MEMO** • あるデータ表示部品で入力中に他のデータ表示部品をタッチした場合、入力中のデータは入力前のデータに戻り、タッチされたデータ表示部品が入力可能状態になります。  • **ビット** 入力許可ビットアドレスの ON でデータ表示部品が入力可能状態になります。  **MEMO** • あるデータ表示部品で入力中に [入力許可ビットアドレス] が OFF した場合は、入力可能状態が解除され、入力前の状態に戻ります。
タッチ	

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
タッチ	ポップアップキーボードを使用する	データ表示部品をタッチしたときにポップアップキーボードを表示するかどうかを設定します。  **MEMO** • データ表示部品をウィンドウ画面に配置する場合はポップアップキーボードを使用できません。
	入力順序指定	複数のデータ表示部品に連続して入力する場合、入力可能状態になる順番を設定します。
	入力順序	入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。
ビット		
	入力許可ビットアドレス	ここで設定したビットアドレスが ON になったときにデータ表示部品が入力可能状態になります。
	入力順序	複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合（[入力許可ビットアドレス] が同じデータ表示部品が複数存在した場合、または異なる [入力許可ビットアドレス] が複数同時に ON した場合）に入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。 **MEMO** • 複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合は、設定した [入力順序] に従ってそれぞれのデータ表示部品が入力可能状態になります。[入力順序] が同じ場合はデータ表示部品を配置した順序で入力可能状態になります。 • ベース画面とウィンドウ画面にそれぞれ配置したデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合、入力可能な状態になる優先順位はベース画面、ウィンドウ画面の順となります。ベース画面とウィンドウ画面にデータ表示部品を配置する場合は、必ず異なる [入力許可ビットアドレス] を設定してください。  [入力許可ビットアドレス] が同時に ON

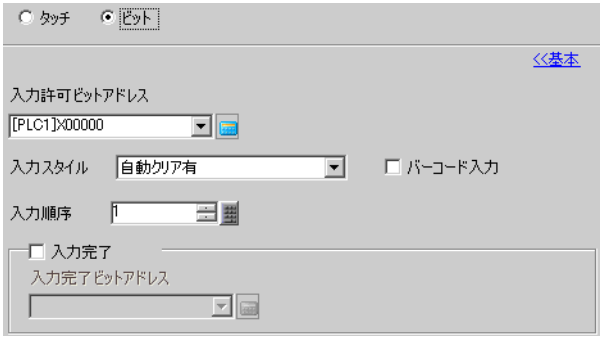
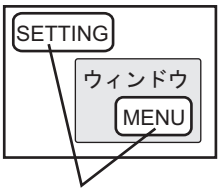
■ 入力許可 / 詳細

設定項目		設定内容
タッチ	ポップアップキーボードを使用する	データ表示部品をタッチしたときにポップアップキーボードを表示するかどうかを設定します。 **MEMO** • データ表示部品をウィンドウ画面に配置する場合はポップアップキーボードを使用できません。
	キーボードタイプ	• **システムキーボード** GP-Pro EX であらかじめ用意されている標準のキーボードを使用します。通常はこちらを使用します。 • **ユーザーキーボード** キーボード部品を利用して自作したキーボードを使用します。用途に応じてカスタマイズしたキーボードで入力したい場合に使用します。 ☞「16.6.1 **キーボードの設定ガイド ■ ユーザーキーボード**」(16-30 **ページ**)
	システムキーボード	GP-Pro EX であらかじめ用意されている標準のキーボードが表示されます。 

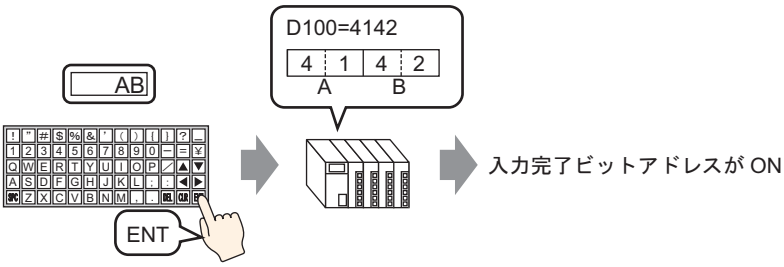
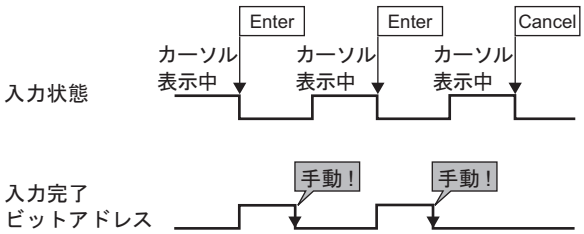
次のページに続きます。

<table>
<tr><th colspan="3">設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="11">タッチ</td><td rowspan="2">ユーザーキーボード</td><td>キーボード番号</td><td>別途作成したキーボードの番号を設定します。
☞「16.6.1 キーボードの設定ガイド ■ ユーザーキーボード」（16-30 ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="2">配置位置指定</td><td>ポップアップキーボードを表示する位置を指定するかどうかを選択します。[する] を選択した場合は、データ表示部品配置後にポップアップキーボード表示エリアを選択して移動できます。
MEMO
• データ表示部品を他のオブジェクトとグループ化した状態では、ポップアップキーボード表示エリアを選択、移動することはできません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">入力順序指定</td><td>複数のデータ表示部品に連続して入力する場合、入力可能状態になる順番を設定します。</td></tr>
<tr><td rowspan="8"></td><td>入力順序</td><td>入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。</td></tr>
<tr><td>グループ番号</td><td>連続して入力するデータ表示部品をグループ分けします。同じグループに登録されたデータ表示部品の入力順序に従ってカーソルが移動し、入力可能状態になります。グループ番号は 1 ～ 10 で設定します。
☞「14.13.2 グループ分けして入力順序を設定する」（14-105 ページ）</td></tr>
<tr><td>インターロック</td><td>[インターロックアドレス] のビットが [タッチ有効条件] で指定した状態の場合のみ入力が許可される機能です。インターロック機能を使用するかどうかを設定します。
☞「14.7 誤操作を防止したい（インターロック）」（14-26 ページ）</td></tr>
<tr><td>インターロックアドレス</td><td>入力を許可するタッチの有効条件となるビットアドレスを指定します。このアドレスの状態によりタッチが有効（無効）になります。</td></tr>
<tr><td>タッチ有効条件</td><td>入力を許可するタッチが有効となる条件を選択します。
<table>
<tr><th>タッチ有効条件</th><th>インターロックアドレスの状態</th><th>タッチの有効／無効</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ビット ON 時</td><td>ON</td><td>タッチ有効</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>タッチ無効</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ビット OFF 時</td><td>ON</td><td>タッチ無効</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>タッチ有効</td></tr>
</table>
MEMO
• 入力中にインターロックの [タッチ有効条件] が無効に切り替わった場合、入力中のデータ表示部品は、引き続き入力可能な状態です。入力を終了するまではインターロック機能は作動しません。</td></tr>
</table>

次のページに続きます。

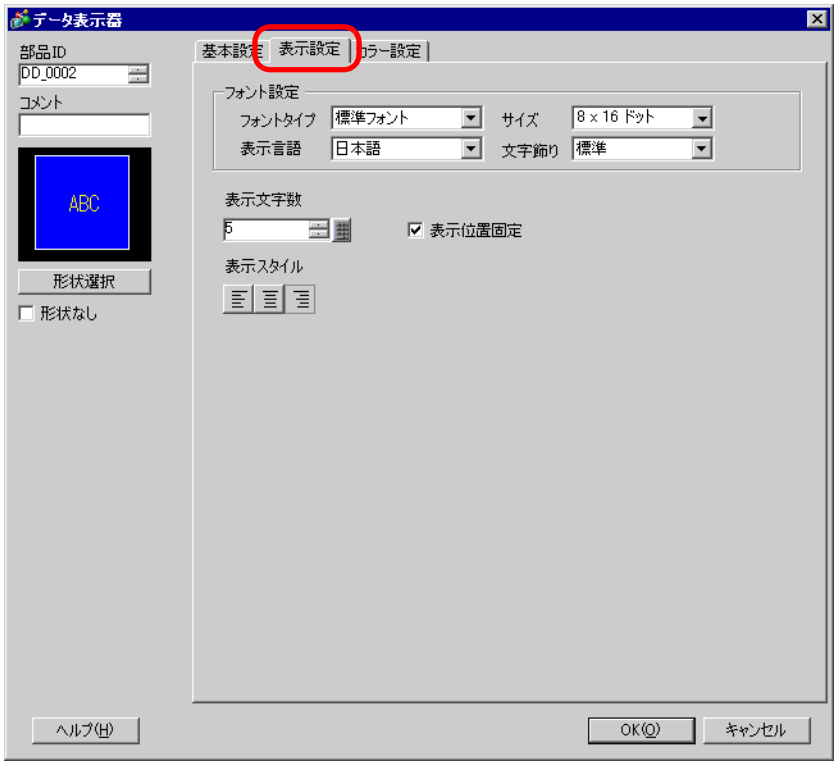
設定項目		設定内容
ビット		
	入力許可ビットアドレス	ここで設定したビットアドレスが ON になったときにデータ表示部品が入力可能状態になります。
	入力順序	複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合（[入力許可ビットアドレス] が同じデータ表示部品が複数存在した場合、または異なる [入力許可ビットアドレス] が複数同時に ON した場合）に入力可能状態になる順番を 1 ～ 384 で設定します。 **MEMO** • 複数のデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合は、設定した [入力順序] に従ってそれぞれのデータ表示部品が入力可能状態になります。[入力順序] が同じ場合はデータ表示部品を配置した順序で入力可能状態になります。 • ベース画面とウィンドウ画面にそれぞれ配置したデータ表示部品の [入力許可ビットアドレス] が同時に ON した場合、入力可能な状態になる優先順位はベース画面、ウィンドウ画面の順となります。ベース画面とウィンドウ画面にデータ表示部品を配置する場合は、必ず異なる [入力許可ビットアドレス] を設定してください。  [入力許可ビットアドレス] が同時に ON
入力スタイル		• **自動クリア無し** 既に入っている文字列に続いて値が入力されます。値をクリアしたい場合はキーボードから [CLR] を入力します。 • **自動クリア有り** 第一文字目（ただし、カーソル移動、[ENT]、[DEL]、[BS] のキーは除く）を入力するとすでに入っている文字列をクリアします。 • **入力桁チェック** バーコード入力の際、自動クリアを行いさらに入力された桁に対して [表示文字数] と一致しているかをチェックします。一致していない場合はワードアドレスへの書き込みを行いません。
バーコード入力		バーコードリーダからの入力を許可する設定です。 ☞「8.2.2 **設定手順**」（8-5 **ページ**）

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
入力完了	入力が完了したことを検出、通知する設定を行います。 
入力完了 ビットアドレス	入力が完了したときに ON するビットアドレスを設定します。  **MEMO** • 入力完了時にこのビットを OFF に戻す処理を行ってください。

■ 表示設定

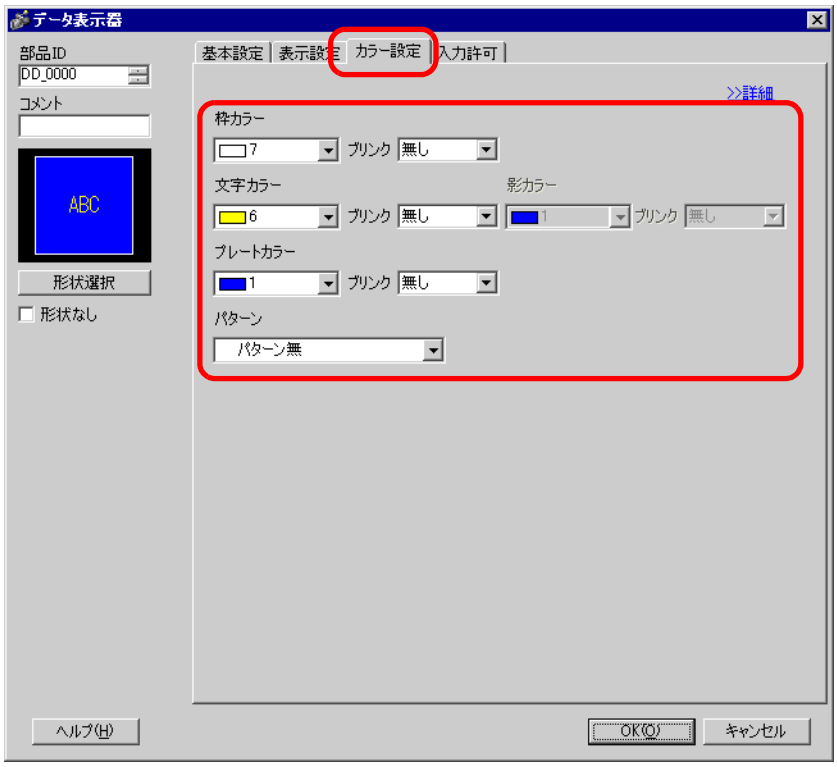
文字列表示部品のフォントや装飾を設定します。



設定項目		設定内容
フォント設定		表示する文字列のフォント設定を行います。
	フォントタイプ	表示する文字列のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	サイズ	表示する文字列のフォントのサイズを選択します。 **標準フォント**：(8 ～ 64) × (8 ～ 128) **標準フォント（固定サイズ）**：[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] **ストロークフォント**：6 ～ 127
	表示言語	表示言語を [日本語]、[欧米]、[中国語（簡体字）]、[中国語（繁体字）]、[韓国語]、[キリル文字]、[タイ語] から選択します。
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 **標準フォント（固定サイズ）：**[標準]、[影付き] から選択 **ストロークフォント**：[標準]、[太字]、[中抜き] から選択
表示文字数		文字列表示部品に表示する文字数を 1 ～ 100 で設定します。
表示位置固定		文字列の表示位置を部品中央に固定するかどうかを設定します。
表示スタイル		文字列表示エリア内の文字列の位置を [右詰め]、[左詰め]、[中央揃え] から選択します。

■ カラー設定 / 基本

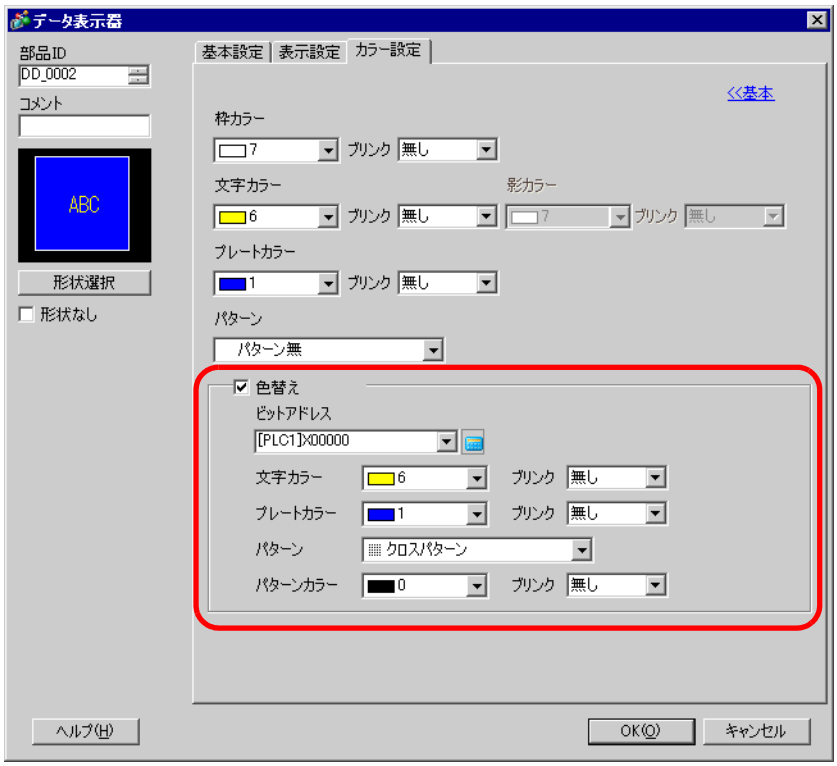
文字列表示部品の色を設定します。



設定項目	設定内容
枠カラー	文字列表示部品の枠の色を設定します。
文字カラー	文字列表示部品の文字の色を設定します。
影カラー	文字列表示部品の文字背景の色を設定します。
プレートカラー	文字列表示部品の背景の色を設定します。
パターン	文字列表示部品の背景柄を設定します。
パターンカラー	文字列表示部品の背景柄の色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[枠カラー]、[文字カラー]、[影カラー]、[プレートカラー]、[パターンカラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「9.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」(9-34 **ページ**)

■ カラー設定 / 詳細

文字列表示部品の文字列データの色をビット ON のタイミングで変更する場合の設定を行います。



設定項目		設定内容
色替え		[ビットアドレス] で指定したビットが ON であれば色を変えて表示する設定を行います。
	ビットアドレス	ここで設定したアドレスが ON したときに色替えを行います。
	文字カラー	[ビットアドレス] が ON したときに表示する文字の色を設定します。
	プレートカラー	[ビットアドレス] が ON したときに表示する背景の色を設定します。
	パターン	文字列表示部品の背景柄を設定します。
	パターンカラー	文字列表示部品の背景柄の色を設定します。
	ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[文字カラー]、[プレートカラー]、[パターンカラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「9.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」(9-34 **ページ**)

14.11.3 日付 / 時間表示

■ 基本設定

日付・時間を表示します。

設定項目		設定内容
フォント設定		表示する日付 / 時間のフォント設定を行います。
	フォントタイプ	表示する日付 / 時間のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	サイズ	表示する日付 / 時間のフォントのサイズを選択します。 **標準フォント**：（8 ～ 64）×（8 ～ 128） **標準フォント（固定サイズ）**：[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] **ストロークフォント**：6 ～ 127
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 **標準フォント（固定サイズ）：**[標準]、[影付き] から選択 **ストロークフォント**：[標準]、[太字]、[中抜き] から選択 **MEMO** • [7 セグ表示] を指定している場合は [文字飾り] は設定できません。

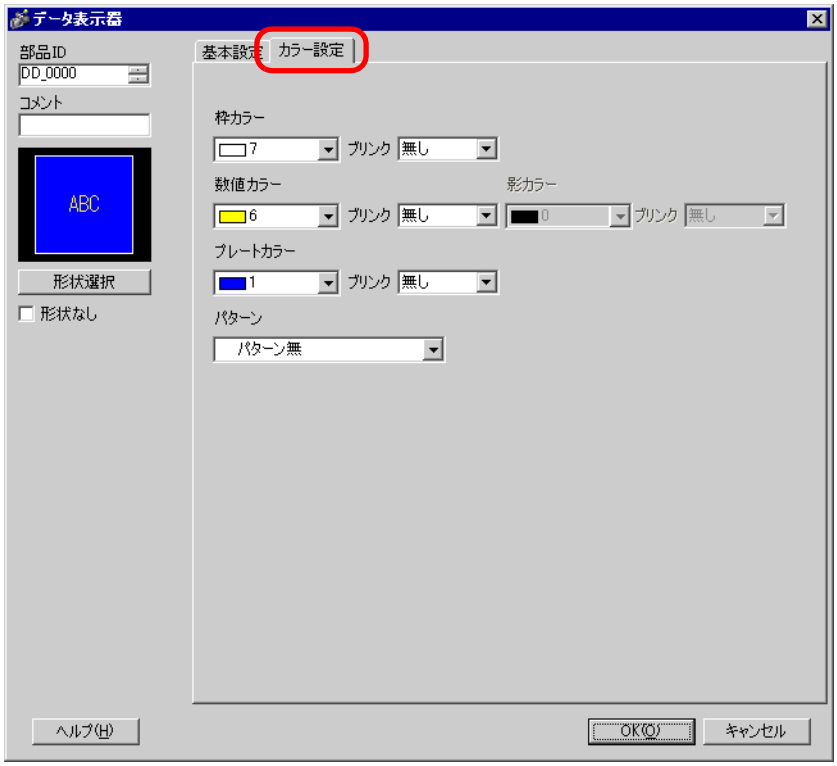
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
日付	日付を表示するかどうかを設定し、日付のフォーマットを [yy/mm/dd]、[dd/mm/yy]、[mm/dd/yy]、[20yy/mm/dd]、[dd/mm/20yy]、[mm/dd/20yy]、[yy 年 mm 月 dd 日]、[20yy 年 mm 月 dd 日] から選択します。 MEMO • 年月日を含んだフォーマットを選択した場合、数字部分は全角になります。ただし、[7 セグ表示] を指定した場合は数字部分は半角になります。
曜日	曜日を表示するかどうかを設定します。
時間	時間を表示するかどうかを指定し、時間のフォーマットを [hh:mm]、[hh:mm:ss]、[hh 時 mm 分 ss 秒]、[hh 時 mm 分] から選択します。 MEMO • 時分秒を含んだフォーマットを選択した場合、数字部分は全角になります。ただし、[7 セグ表示] を指定した場合は数字部分は半角になります。
表示位置固定	日付 / 時間表示エリアの表示位置を部品中央に固定するかどうかを設定します。
7 **セグ表示**	表示するデータを 7 セグメントで表示する設定を行います。 MEMO • [サイズ] で [固定サイズ] を設定している場合は設定できません。 • [文字飾り] で [標準] を選択している場合のみ設定できます。
プレビュー	設定に応じてデータの表示イメージを表示します。

■ カラー設定

表示する日付／時間表示部品の色を設定する画面です。

☞「14.6 日付・曜日・時間を表示したい」（14-23 ページ）

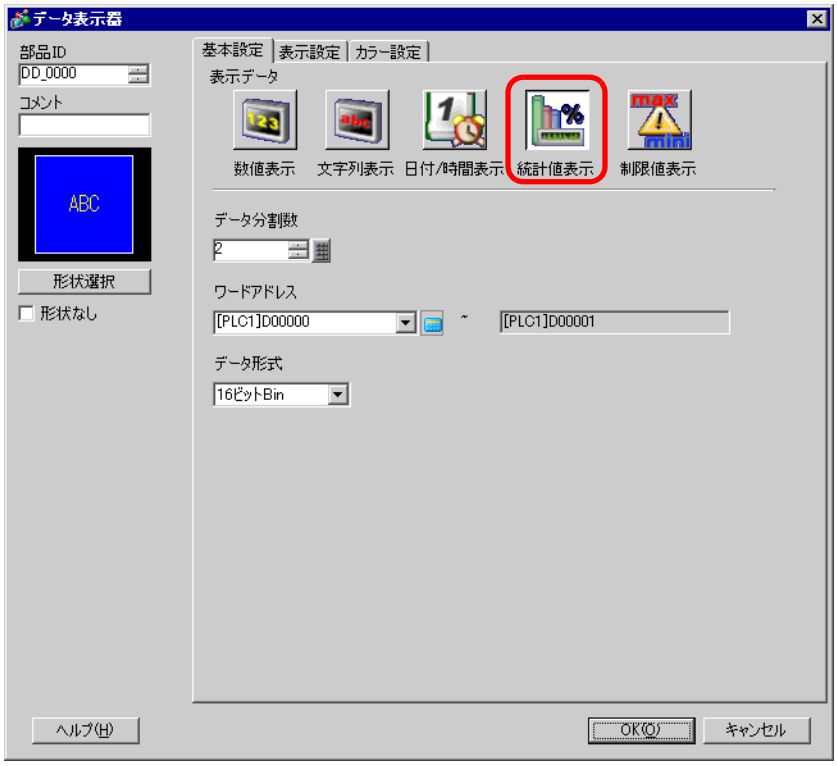


設定項目	設定内容
枠カラー	日付／時間表示部品の枠の色を設定します。
数値カラー	日付／時間表示部品の文字の色を設定します。
影カラー	日付／時間表示部品の文字飾りの影色を設定します。
プレートカラー	日付／時間表示部品の背景の色を設定します。
パターン	日付／時間表示部品の背景柄を設定します。
パターンカラー	日付／時間表示部品の背景柄の色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[枠カラー]、[数値カラー]、[影カラー]、[プレートカラー]、[パターンカラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「9.5.1 カラーを設定する ■ 対応色数一覧」（9-34 ページ）

14.11.4 統計値表示

連続する複数のワードアドレスに格納されたデータの統計を取って、数値表示します。主にグラフ部品で設定した統計グラフデータの数値表示に使用します。グラフの設定がなくても統計値単独で設定することもできます。

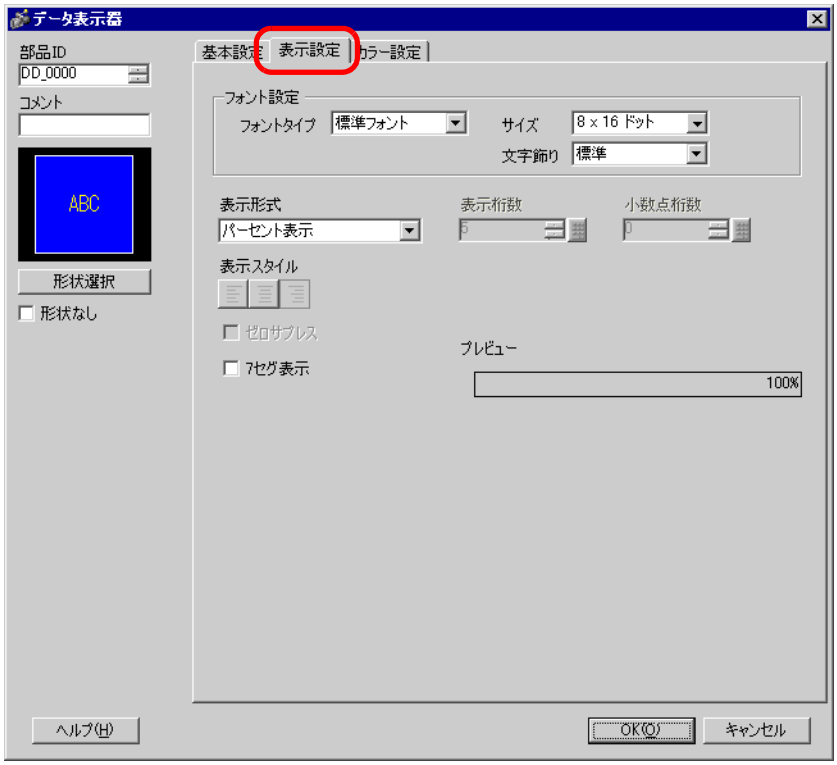
■ 基本設定



設定項目	設定内容
データ分割数	統計値表示するデータ数を設定します。設定範囲は 2 ～ 16 です。
ワードアドレス	統計値表示するデータの先頭のワードアドレスを設定します。指定したアドレスから分割数分のアドレスが自動的に統計値表示用に割り付けられます。統計グラフの統計値表示に使用する場合は統計グラフの [モニタワードアドレス] と合わせます。
データ形式	統計表示するデータの形式を選択します。 ビット長 / データ形式 16 ビット / Bin、BCD 32 ビット / Bin、BCD、Float **MEMO** • １つの統計値表示で Bin と BCD、および Float のデータを混在させることはできません。

■ 表示設定

統計値表示部品のフォントや装飾を設定します。



設定項目		設定内容
フォント設定		表示する統計値のフォント設定を行います。
	フォントタイプ	表示する統計値のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	サイズ	表示する統計値のフォントのサイズを選択します。 **標準フォント**：（8 ～ 64）× （8 ～ 128） **標準フォント（固定サイズ）**：[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] **ストロークフォント**：6 ～ 127
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 **標準フォント（固定サイズ）：**[標準]、[影付き] から選択 **ストロークフォント**：[標準]、[太字]、[中抜き] から選択 **MEMO** • [7 セグ表示] を指定している場合は [文字飾り] は設定できません。
表示形式		統計値の表示形式を [パーセント表示]、[数値]、[パーセント表示 + 数値] から選択します。 **重　要** • **[パーセント表示] の場合、計算誤差のため数値を足し合わせても 100% にならないことがあります。**

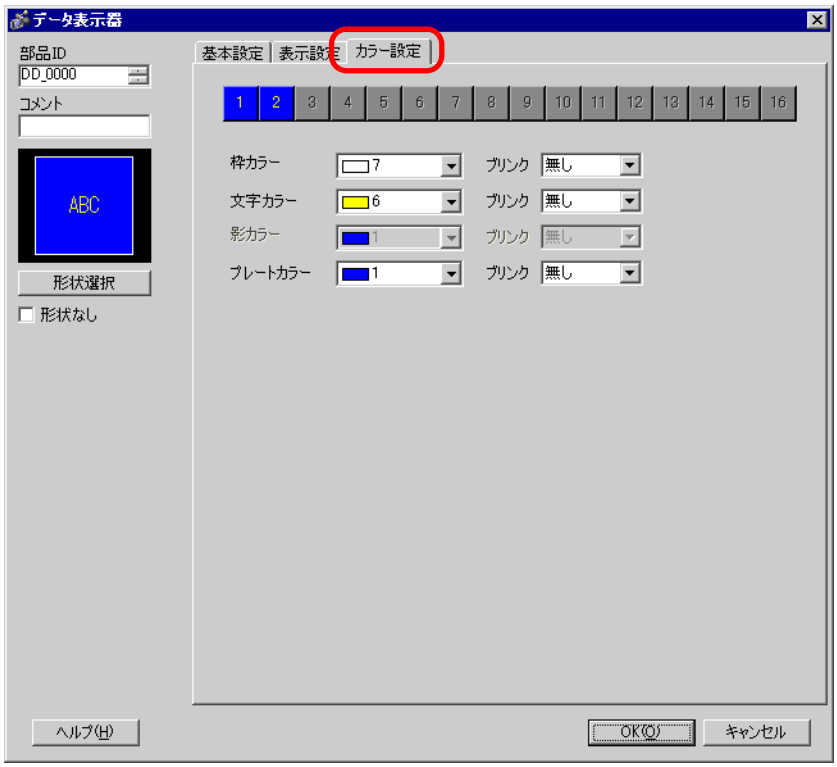
次のページに続きます。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>表示桁数
小数点桁数</td><td>[表示桁数] で数値表示部品に表示する桁数を設定します。小数点より下の桁数も含めて指定します。ただし小数点は表示桁数に含みません。設定範囲はデータ形式により異なります。
[小数点桁数] で数値表示部品に表示する小数点より下の桁数を設定します。
[データ形式] が [Dec] または [Float] の場合のみ設定します。各桁数の設定範囲は [データ形式] によって異なります。

例）
表示桁数を「5」、小数点桁数を「2」とした場合、数値表示部品では以下のように表示されます。
123.45
<table><tr><th>データ長</th><th>データ形式</th><th>表示桁数</th><th>小数点桁数</th></tr><tr><td rowspan="2">16 ビット</td><td>Bin</td><td rowspan="2">1 ～ 11</td><td rowspan="2">1 ～ 10</td></tr><tr><td>BCD</td></tr><tr><td rowspan="3">32 ビット</td><td>Bin</td><td rowspan="2">1 ～ 11</td><td rowspan="2">1 ～ 10</td></tr><tr><td>BCD</td></tr><tr><td>Float</td><td>1 ～ 17</td><td>1 ～ 16</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>表示スタイル</td><td>統計値の表示位置を [右詰め]、[左詰め]、[中央揃え] から選択します。</td></tr>
<tr><td>ゼロサプレス</td><td>表示桁数を揃えるための「0」（ゼロ）を表示するかどうかを設定します。
例）
表示桁数が４の場合
☑ ゼロサプレス　25　　☐ ゼロサプレス　0025
不要な「0」は表示しない　　表示桁数に足りない分だけ「0」を補って表示</td></tr>
<tr><td>７セグ表示</td><td>表示するデータを７セグメントで表示する設定を行います。
MEMO
• [サイズ] で [固定サイズ] を設定している場合は設定できません。
• [文字飾り] で [標準] を選択している場合のみ設定できます。</td></tr>
<tr><td>プレビュー</td><td>設定に応じてデータの表示イメージを表示します。</td></tr>
</table>

■ カラー設定

表示する統計値表示部品の色を設定します。

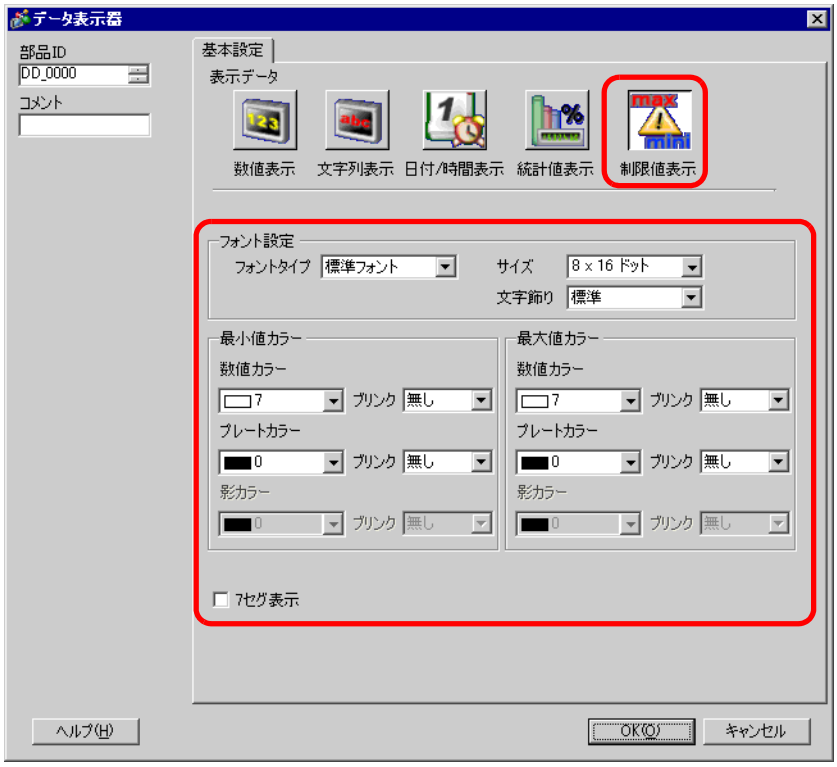


設定項目	設定内容
状態選択バー	[データ分割数] で選択した分割範囲の番号を表示します。
枠カラー	統計表示部品の枠の色を設定します。
文字カラー	統計表示部品の文字の色を設定します。
影カラー	統計表示部品の文字飾りの影の色を設定します。
プレートカラー	統計表示部品の背景の色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[枠カラー]、[文字カラー]、[影カラー]、[プレートカラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「9.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」(9-34 **ページ**)

14.11.5 制限値表示

警報値設定を行った数値表示部品と同じ画面上に、設定した警報値（表示データの上限・下限値）を表示します。

■ 基本設定



設定項目			設定内容
フォント設定			表示する制限値のフォント設定を行います。
	フォントタイプ		表示する制限値のフォントタイプを [ストロークフォント]、[ビットマップフォント] から選択します。
	サイズ		表示する制限値のフォントのサイズを選択します。 **標準フォント**：（8 ～ 64）×（8 ～ 128） **標準フォント（固定タイプ）**：[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] **ストロークフォント**：6 ～ 127
	文字飾り		フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 **標準フォント（固定サイズ）：**[標準]、[影付き] から選択 **ストロークフォント**：[標準]、[太字]、[中抜き] から選択
最大値・最小値カラー		**数値カラー**	最大値・最小値の数値の色を設定します。
		プレートカラー	最大値・最小値の背景の色を設定します。
		影カラー	表示する制限値の文字飾りの影の色を設定します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
7セグ表示	表示するデータを7セグメントで表示する設定を行います。 MEMO • [サイズ] で [固定サイズ] を設定している場合は設定できません。 • [文字飾り] で [標準] を選択している場合のみ設定できます。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[数値カラー]、[背景プレートカラー]、[影カラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 MEMO • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「9.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」(9-34 **ページ**)

MEMO

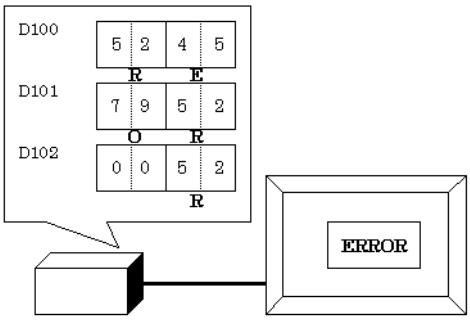
- 入力範囲（制限値）を表示する際のデータ形式は、数値表示部品のデータ形式に依存します。
- 入力可能状態のデータ表示部品に [警報設定] がない場合や、入力状態のデータ表示部品がない場合には、スペースを表示します。

14.12 制限事項

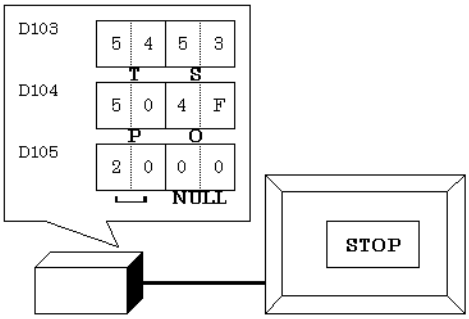
14.12.1 文字列表示の制限事項

- 文字データを扱うため、他の部品に比べて処理するデータ量が大きく、通信に時間がかかることがあります。文字列の表示切替を速くするには以下の方法があります。
  - 表示する文字列が短い場合は [表示更新条件] を [データ変化] に設定し、[表示更新ビットアドレス] を用いずに表示させる。
  - 文字列が長い場合には [ビット ON] または [ビット変化] に設定し、[表示更新ビットアドレス] を用いる。
- NULL コードまたは表示文字数（バイト数）で文字列の最後を認識します。
  [表示文字数] で設定した文字数よりも、実際に表示させる文字が少ない場合、接続機器側のアドレスの余った部分には NULL="00(h)"（Unicode の場合は Null="0000(h)"）を格納してください。
  NULL より後が余る場合はスペース (␣)="20(h)" が格納されます。

  例）表示文字数 6　実際の表示文字「ERROR」（5 文字）の場合

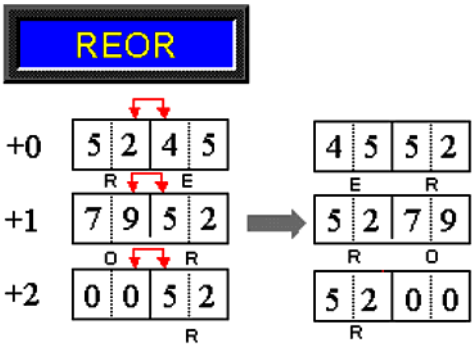


  例）表示文字数 6　実際の表示文字「STOP」（4 文字）の場合



- 文字コードの格納順（Low/High）は使用するデバイスによって異なります。

文字表示が以下のように上手く表示されない場合は、文字コードの格納順を接続機器側で変更してください。



- 整数変数を使ってデータ表示器に文字列を入力をする場合は、データの並びは接続機器設定の文字列データモードに関係なく、以下のようになります。

  例）表示文字数：4、入力許可の指定あり、入力文字「ABCD」

	31　24	23　16	15　8	7　0
HEX	44	43	42	41
ASCII	D	C	B	A

■ 文字入力

- 「表示文字数」で指定した文字数より少ない文字数を入力した場合は、「表示文字数」に足りない文字数分のスペース（␣）＝ "20(h)" が格納されます。

  表示文字数 6 文字で 4 文字入力（16 ビットデバイス時）

'A'	'B'	'C'	'D'	'␣'	'␣'

  表示文字数 5 文字で 4 文字入力（16 ビットデバイス時）

'A'	'B'	'C'	'D'	'␣'	NULL

14.12.2 タイムベース機能の制限事項

- [基本設定] の [モニタワードアドレス] で指定している接続機器が対応機種以外の場合は、設定しても動作しません。
- [Time-Base] にチェックを入れたときは、次の項目の設定が変更できなくなります。

カテゴリ	項目	固定値
基本設定	アドレスタイプ	直接指定
	入力 / 表示範囲の指定	チェックなし
	データ形式	16 ビット Dec
	符号 +/-	チェックなし
	四捨五入	チェックなし
表示設定	表示桁数	3
	小数点桁数	0
	表示スタイル	右詰
	ゼロサプレス	チェックあり
	ゼロ表示	チェックあり
	表示フォーマット	チェックなし
警報 / カラー設定※1	範囲数	1
	範囲指定	定数
	範囲 No.	最小値：0 最大値：999
	警報動作	直接
演算処理	演算処理	チェックなし
入力許可	バーコード入力	チェックなし

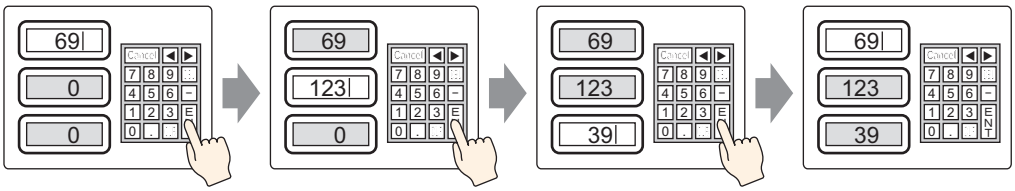
※1 [基本設定] の [入力許可] にチェックを入れ、かつ [Time-Base] の [入力固定] にチェックを入れなかったときは、[警報 / カラー設定] の [警報設定] を設定できません。
[警報設定] では、[警報範囲] を 0 ～ 999 で設定できます。

- GP 上で入力中に、指定したアドレスに格納しているモードを変更した場合、以前のままのモードで入力されます。リアルタイムに更新はされません。

14.13 データ入力順序のしくみ

14.13.1 入力順序を設定する

あるデータ表示部品の入力が確定されると、[入力順序] で設定された次の番号のデータ表示部品が入力可能状態になります。



入力し [Enter] キーをタッチ

入力が確定され、次の入力順のデータ表示部品が入力状態になる。→入力し [Enter] キーをタッチ

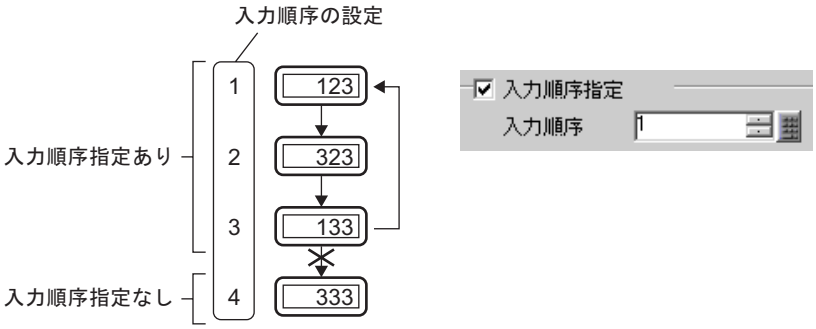
入力が確定され、先頭の入力順のデータ表示部品が再び入力可能状態になります。

連続入力の終了

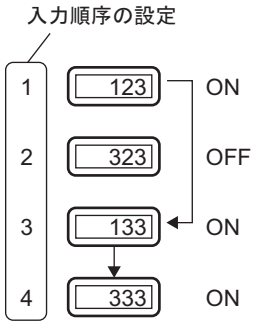
[タッチ] の場合、入力を終了するにはキーボードの [CANCEL] キーをタッチするか、現在入力しているデータ表示部品を再度タッチしてください。[ビット] の場合は [入力許可ビットアドレス] の OFF で終了します。

連続入力の対象

[タッチ] の場合は、[入力順序指定] を指定したデータ表示部品が連続入力の対象となります。

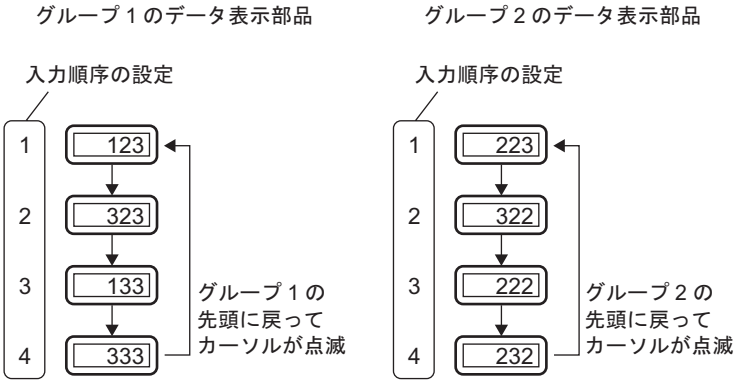


[ビット] の場合は、すべてのデータ表示部品に入力順序の設定がありますが、実際には [入力許可ビットアドレス] が ON になっているものだけが連続入力の対象となります。



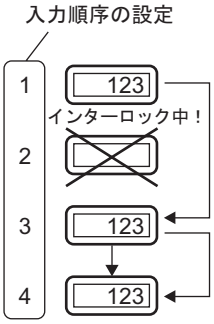
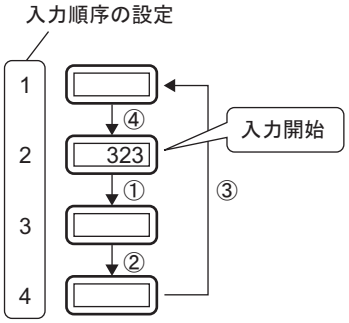
14.13.2 グループ分けして入力順序を設定する

[タッチ] の場合、詳細画面で連続入力するデータ表示部品をグループ分けすることができます。連続入力は各グループ内で行われます。



MEMO

- [入力順序] を設定しているデータ表示部品の中でインターロック中のものがある場合、インターロック中のものをとばして次の番号のデータ表示部品が入力可能状態になります。下図では 1→3→4→1 の順番になります。



- 入力中に上下矢印 [↑][↓] キーを押すと、現在の入力はキャンセルして入力前のデータに戻り、次の入力順序のデータ表示部品が入力可能状態（カーソル表示状態）になります。
- 下図で [入力順序]2 番目のデータ表示部品から入力可能状態になると 2→3→4→1→2 という順番に入力可能状態になります。